週刊 YEARBOOK

1868~99
明治元~32年

日録20世紀

3|2
平成11年3月2日発行
(毎週1回火曜日発行)
第3巻第8号 通巻100号
平成10年8月21日第三種郵便物認可
¥560
講談社

「日清戦争」、開戦!

明治という時代

帝都の盛り場・浅草に高層ビル
「凌雲閣」建つ!

"明治の花嫁"花・ベルツと
クーデンホーフ光子

「大久保利通暗殺」と
血塗られたテロの系譜

初の近代海戦「黄海海戦」に圧勝した海軍
鴨緑江を越えて清国領内へ進撃する陸軍

「日清戦争」開戦！

▲旅順の西方、方家屯付近で砲撃する第2軍の山砲中隊。明治27年11月21日、大本営陸地測量部撮影。

「日清戦争」は、明治維新を経た日本が、初めて戦った対外戦争だった。当時、米国に留学中の松岡洋右（後に外相）が、「（周囲のアメリカ人は、日本が）支那にひどい目に遭わされるぞという見かたであった。まるで提灯に釣り鐘だ」と嘆いたように、大方の予想は〝清国に分あり〟。しかし、日本は圧勝し、列強の仲間入りをはたすことになった。

朝鮮の内乱を機に日清が兵員を派遣

明治二七年九月一七日、日本軍の連合艦隊（伊東祐亨（ゆうこう）司令長官＝五一）は、敵情視察のため、朝鮮の海洋島に向かって航行していた。軍艦の「吉野」「秋津洲（あきつしま）」などで構成された第一遊撃隊を前衛とし、「松島」「厳島（いつくしま）」が本隊となった一二隻の連合艦隊に、雨まじりの風が吹きつける。

「敵艦隊東方に見ゆ」――午前一一時三〇分、大孤山（たいこざん）港沖にさしかかった時、清（しん）国の丁汝昌（ていじょしょう）提督率いる軍艦一二隻、水雷艇六隻からなる北洋艦隊と鉢合わせになった。日清主力艦隊の思わぬ遭遇だった。

両軍の距離が三〇〇〇㍍に近づいた午後零時五〇分頃、ついに戦端が開かれた。

この時、「秋津洲」の上村彦之丞（ひこのじょう）艦長（四五）は、

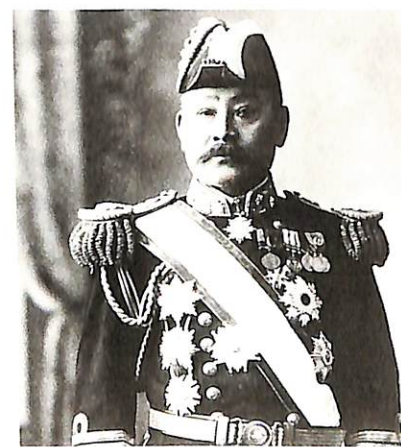
「（兵員に向かって）『お前達の中には、怖がつて居るものがあるさうだ。（中略）誰が怖がつて居るか、見当がつかぬ。斯んな場合勇気のあるものは睾丸（こうがん）がだらりと垂れて居るが、怖がつて居るものは縮み上つて居るさうだ。今から之（これ）を点検する』と訓示し、『ヅボン取れ！』と怒鳴

▲明治27年7月、大島義昌少将率いる臨時混成旅団が、牙山で戦闘を続ける中、第5師団、さらに第3師団が歓呼の声に送られ朝鮮へ向かう。千葉県佐倉駅で。　毎日新聞社

毎日新聞社

▲広島城内におかれた大本営正門。開戦後、大本営は東京から西に移されることになり、宇品港に近い広島の地が選ばれた。

▶日清戦争に際して、第1軍司令官となり、平壌、九連城の戦いを指揮した山県有朋。この写真は、9月出征直前に広島で撮影。

◀連合艦隊を指揮して、黄海海戦で勝利をおさめた伊東祐亨司令長官。威海衛作戦では、残存する北洋艦隊を壊滅させた。

◎表紙　写真師・内田九一が、明治5年に撮影した明治天皇。この写真が、明治天皇の最初の「御真影」とされている。

初の近代海戦「黄海海戦」に圧勝した海軍
鴨緑江を越えて清国領内へ進撃する陸軍

「日清戦争」開戦!

▲威海衛北岸黄土崖に据えられた21センチ砲。攻略成功によって捕獲した砲は計90門にのぼり、55門が使用可能だった。

毎日新聞社

▲旅順攻略を主任務とする第2軍に従軍した新聞特派員団。中央は、大寺安純第1師団参謀長。

◀明治27年11月21日、第2軍は清国軍が十数年の歳月をかけて構築した旅順要塞を、わずか1日で占領した。清国兵戦死者を埋葬する軍夫。

った。この珍号令に一同思わず爆笑、蒼白な顔をして居たものも何時もの如く元気になつた」(中島武『海の旗風』)

一瞬、緊張の走った日本軍も、第一遊撃隊が快速を利用して、「致遠」「超勇」など五隻を撃沈・大破し、東洋随一と言われた軍艦の「定遠」(七三〇〇トン)などに損傷を与えた。清国側の死傷者は一〇〇〇人以上。日本側は艦艇を一隻も失わず、死傷者も二四〇人にすぎなかった。

約二ヵ月前の七月二五日、朝鮮西岸の豊島沖で緒戦を飾った日本海軍は、この「黄海海戦」で制海権を奪い、その後の戦闘を有利に進めることになる。

「日清戦争」は、ロシア南下の防波堤として朝鮮を勢力下におきたい日本と、朝鮮を属国とみなしていた清国が、威信をかけて対決した戦争だった。

明治二七年三月、朝鮮・全羅道で新興宗教の一団が中心となった農民叛乱「東学党の乱」が勃発したのを機に、李朝か

◀負傷兵の護送。明治二八年三月一八日、金州城内兵站病院前で撮影。

▲第1軍司令部および第3師団が、朝鮮国仁川港に上陸。写真左奥の建物は、日本郵船支店。右端の海浜に並べられている軍需品は、渡河に必要な鉄舟。明治27年9月12日、大本営写真班撮影。

毎日新聞社

▲明治28年2月、威海衛で説教する従軍僧侶。前年12月中旬以降、連合艦隊と第2軍による威海衛作戦が展開され、威海衛要塞と北洋艦隊が攻撃目標となった。

毎日新聞社

▲日清開戦に先立って結ばれた「大日本・大朝鮮両国盟約」に従って、朝鮮政府兵が日本軍に従軍。写真は、清国兵捕虜を監視する朝鮮政府兵。

初の近代海戦「黄海海戦」に圧勝した海軍
鴨緑江を越えて清国領内へ進撃する陸軍

「日清戦争」開戦!

▲黄海海戦。写真右手前が、軍艦「橋立」「厳島」「千代田」「松島」、左は第1遊撃隊。遠方に見えるのが清国艦隊。明治27年9月17日、午後零時56分撮影。

ら要請を受けた清国と歩調を合わせ、日本も兵員約七〇〇〇人を広島から派遣。内乱は鎮圧されたが、朝鮮の内政改革をめぐって日清会談が決裂、戦争状態に突入する。

ここで注目したいのは、「日清戦争」が、明治天皇（四二）の意志をないがしろにして開始された点だ。実際、この年の八月には、「この戦争は朕素より不本意なり」と、天皇が激怒するという事件も起きていた。

「明治天皇は、出兵そのものには反対ではありませんでしたが、伊藤博文首相（五二）や陸奥宗光外相（五〇）の強引なやり方に憤慨していました。伊藤や陸奥は、重要な外交情報を隠し、閣内にも詳細を知らせず、まったくの独断で開戦外交を展開したわけです」

そう語るのは、『日清戦争　秘蔵写真が明かす真実』（講談社）の著者、中京大学の檜山幸夫教授である。

〝開戦外交〟の裏にあるのが、国内問題だった。対外強硬派を中心とする反政府運動の高揚で、窮地におちいった伊藤内閣は、危機の回避策として戦争を期待していた。

ところが、開戦後、日本軍が次々に勝利をおさめると積極姿勢に転じた明治天皇は、九月一五日に設置された広島大本営で、みずから陣頭指揮をとり始める。

「ある司令官が、たまには御休息遊ばすためにと、安楽椅子を運ぼうとしたところ、『戦地にも、安楽椅子があるか』と仰せられたので、大御心の有難さ拝し奉って差控えた」（植村茂夫著『海軍魂』）

政治家の思惑によって始まった「日清戦争」は、以降も受け継がれる〝軍人天皇〟像を生みだし、その神格化に貢献することになる。

◀清国北洋艦隊を率いた丁汝昌。名提督と呼ばれたが、降伏後自殺。

毎日新聞社

〝国民国家〟成立の契機となった戦争

日本軍は陸上でも、七月二九日に牙山の北東にある成歓で清国軍を打ち破ったのを皮切りに、九月一五日には平壌を占領。一〇月下旬には、元老の山県有朋（五六）が司令官をつとめる第一軍が鴨緑江を渡り、凍傷と闘いながら、鳳凰城、奉天などへ進撃。遼東半島の花園河口に上陸した大山巌陸軍大将（五二）率いる第二軍も、一一月中に大連、旅順を陥落させる。

後に外交問題にも発展する「虐殺事件」が起きたのは、旅順占領の最中だった。一一月二一日から数日間、山地元治（五三）中将率いる第一師団が行ったこの住民虐殺は、戦死した日本兵に清国兵が凌辱を加えたことへの報復とも言われ、貨物船一等運転士、林治寛の日記によれば、「旅順口陥落の時上陸せしに、死屍相積、（中略）酸鼻の残（惨）を見し。内に老あり、幼あり、婦人あり、稚児あり。未だ死に至らざるもの仲（呻）の声、今に猶ほ耳に存す」（『日清戦争　秘蔵写真が明かす真実』）という惨状だった。

日本軍の蛮行は、海外にも伝わり、米国との条約改正交渉にたずさわっていた外務省を窮地におとしいれた。

一方、日本の庶民も、開戦後は清国への敵愾心をかきたてられていった。それに一役かったのが、朝鮮を清国の侵略から守るという〝義戦論〟を展開した新聞や、各地で行われた戦勝祝賀会などだ。

小学二年生だった社会主義者の荒畑寒村が見た壮士芝居では、「支那兵に扮した役者に落花生のからや蜜柑の皮などを投げつけるので、なかには支那兵の役者が憤慨して舞台から見物と喧嘩することもあった」（荒畑寒村『ひとすじの道』）。さらに、「大勝利かんざし」「分捕りせんべい」などの記念グッズも、巷で流行していたという。

その後、日本軍は明治二八年一月下旬から、威海衛要塞と北洋艦隊を陸海両面で攻撃。夜襲をかけて主力艦を大破させ、二月一二日、北洋艦隊を壊滅に追いこんだ。丁汝昌提督は、請降書を発して服毒自殺する。さらに三月には、遼東半島を制圧し、日本は講和に向けて断然有利な位置に立つことになった。

下関で講和条約が調印されたのは、明治二八年四月一七日。兵力（日本約二四万人、清国約九八万人）や海軍の総トン数（日本五万九一〇六トン、清国八万五〇〇〇トン）では清国優勢だが、指揮系統、弾薬補給、作戦計画はどれを取っても日本がまさっていた。

こうした「日清戦争」の歴史的な意味について、前出の檜山教授は、以下のように分析する。

「日本において、挙国一致の戦時体制を成立させたのが『日清戦争』でした。言いかえれば、日本人はこの戦争によって、初めて国家と天皇の存在を認識するようになった。と同時に、急速に衰退して欧米列強に分断される歴史を歩む清国とは裏腹に、列強の仲間入りをはたした日本は、強大な軍事力と朝鮮を足場に、近隣諸国への侵略を開始します。昭和二〇年に破綻するまで、日本が『大日本帝国』として何度も戦争を繰り返す出発点になったのが、この『日清戦争』なのです」

呉市企画部海事博物館推進室提供

▲北洋艦隊の主力艦「鎮遠」は、威海衛の戦い後、旅順に曳航され、日本回航のため応急修理をほどこされた。明治28年5月6日、大本営陸地測量部撮影。

▼「鎮遠」とともに活躍した「定遠」。黄海海戦で損傷し、威海衛で撃沈された。

日清講和会議と三国干渉

明治28年3月20日から、下関の春帆楼で開催された日清講和会議の顔ぶれは、日本側が伊藤博文首相、陸奥宗光外相、中国側が李鴻章・直隷省総督兼北洋大臣。約1ヵ月後の4月17日に調印された条約の内容は、朝鮮を独立国として承認する、遼東半島と台湾、澎湖島を日本に割譲する、軍費の賠償金として銀2億両（約3億円）を払う、などだった。ところが調印から6日後、露、仏、独の駐日公使が外務省を訪れ、「遼東半島領有は、東アジアの平和を乱す」として、放棄するよう勧告した。いわゆる三国干渉である。

あわてた政府は、24日から御前会議を開いて三つの案――戦争をしてでも干渉を拒否する、列国会議で処置を決める、遼東半島を返還する――を協議し、5月4日に領有の放棄を決定した。この干渉をめぐっては世論も沸騰。生方敏郎（当時・12歳＝後に作家）はその様子を、「先生やお父さんと一緒に成って、泣くほどまでに遼東還付を悔しがった」と回顧している。無念の思いは、「臥薪嘗胆」という合い言葉となって、来たるべき対露戦への心の準備を国民にもたらした。

◀清国全権として来日した李鴻章。開戦直後に第三国の友好介入を策すなど、老練な政治家ぶりを発揮。

毎日新聞社

江戸情緒をとどめながら流行の発信地に
明治二三年、高さ五二メートルの東京一の高層建造物完成！
「凌雲閣」と盛り場・浅草の盛衰

▲六区の興行街から「凌雲閣」を望む。浅草は、電飾に輝く表通りとその背後にひそむ私娼窟という二重空間によって、都市生活者を魅惑した。 毎日新聞社

明治時代の浅草は、日本でも最大、最先端のプレイゾーンだった。高さ五二メートルの「凌雲閣」がそびえ立ち、浅草寺裏の興行街には江戸時代からの見世物小屋が軒を並べ、後に映画、オペラ、軽演劇の殿堂となる盛り場としてにぎわっていた。また、遊廓・吉原にも隣接し、あやしげな私娼窟にも囲まれていたのである。

▲明治三〇年頃の雪のひょうたん池。右手奥に日本パノラマ館が。

台東区立下町風俗資料館提供

エレベートルが昇降する 一二階の超高層「凌雲閣」

明治二三年一一月、浅草に「凌雲閣」が完成した。赤煉瓦を積み上げた八角形の建物は、浅草の様相を一変させた。地上一二階建て、高さは約五二メートル（一七二尺）、当時の東京では最も高い建造物だった。

そもそも「凌雲閣」は、明治二二年にパリで完成したエッフェル塔人気を聞きつけて、これにあやかろうと計画されたもの。着工が明治二三年の一月、一〇月にはほぼ落成していたからわずか一〇カ月で完成にこぎ着けたのである。

もともと構想段階では、一〇階建てのはずだった。だから一〇階までは煉瓦だが、その上の部分は木造となっている。

「凌雲閣」は、前年の明治二二年に大阪で完成した九階建ての建造物の名称だったが、江戸っ子が対抗意識を燃やし、三階高いものを建ててあえて同じネーミングをしたとも言われる。地元では親しみをこめて「一二階」と呼ばれた建物には、三〇倍の望遠鏡が据えられ、富士山や関東平野が一望できた。

日本初のエレベーター二台がお目見えしたことも、浅草っ子の自慢の種だった。

「八階までは電気モーターの運転により昇降台＝エレベートルを昇降せしむ」

「電気モーターは紐育より購入せしものにて、一五馬力を有せり」

もっとも、このエレベーターは故障が多く、わずか半年たらずで撤去され、それ以降は設置されなかった。「轟然たる響を聞く事二分時にして音静まれば扉を開きて……夢の如く九層の階上に達せり」（『東京電力五〇年史』）と言われたように、あまりの騒音のため、警視庁が使用差し止めを命じたとの説もある。

館内には、外国からの輸入品を展示するコーナーや、「五〇燭のアーク灯から電話まで」設けられていた。「縦覧料」はおとな八銭、小児四銭だった。軍人の料金は子ども並みに半額とされていたことも、時代をものがたっている。

「凌雲閣」が当時の最も先端的な技術を導入し、ハイカラな商品を取りそろえていた事実は、浅草が東京の中でも最先端の流行の発信地だったことを示している。

そして実際、浅草は、東京見物には欠かせないスポットだった。

▲明治18年、東京市が浅草の仲見世を煉瓦造りの洋風店舗に改築。年末には、139店が新装開店した。 毎日新聞社

仲見世、興行街、「銘酒屋」 大衆に愛された街・浅草

もともと浅草寺の門前町だった浅草が、東京を代表する盛り場に発展したのは、

▲明治一九年、五層の楼閣、奥山閣が花屋敷に移築された。

明治六年、芝増上寺、深川八幡などとともに、日本初の公園に指定されてからのこと。その結果、すべての営業が許可制になった反面、「暮れ六つ（午後六時）」で閉められていた浅草寺境内が、一二時まで開かれることになった。深夜まで営業していることは、都会の盛り場にとって必須の条件だった。また、明治一五年四月には隅田川を蒸気船が航行し、同じ年には新橋―浅草間に馬車鉄道が開通する。アクセスが確保され、浅草を訪れる人はますますふえていった。明治一八年には仲見世が煉瓦造り二階建ての洋風建築となり、面目を一新する。

浅草が俗に「エンコ」と呼ばれるのは、「コーエン（公園）」を逆に読んだものである。この地域を六つに区切り、一区が観音堂周辺、二区が仲見世、そして六区が興行街となった。奥山の興行小屋が六区に移転したのは、明治中期のこと。奥山は玉乗り、軽業、操り人形、手妻（手品）など、あらゆる見世物小屋でにぎわっていた。その後、明治三六年に、日本初の常設映画館「電気館」（活動写真と呼ばれた）のオープンを皮切りに、次々と映画館が誕生し、一〇〇〇人収容の小屋が二〇軒以上も軒を並べた。

古今亭志ん生が噺の枕に好んで振った川柳に、「弔いは浅草と聞き親父行き」がある。浅草と吉原は徒歩で行ける距離だったため、息子に行かせるわけにはいかないという意味だ。吉原にかよう人にとって、仲見世は通り道だった。「観音様」にお参りした後、別の「観音様」を拝みたいという不謹慎な輩が少なくなかったのである。江戸時代から公認の売春街だった吉原の遊女の数は、明治二〇年には二〇〇〇人を超えていた。

吉原以外にも、浅草には私娼窟があった。「銘酒屋」と称して、当時としては珍しいウイスキーや、ブランデーの瓶を店頭に飾ったのがミソ。表向きは居酒屋だが、実態はいわゆる「ちょんの間」の客相手の売春宿だった。つまり大きめの座布団があるだけで、吉原より安いのが売り物。一時は吉原を上回る勢いを見せた。再三摘発を受けたのは、吉原の差し金とも言われる。中には「新聞縦覧所」と銘うった店まで出現し、料金は五〇銭から七〇銭前後が相場だった。明治二〇年当時、米一〇キロの値段は四六銭と記録されている。一軒当たりの売春婦の数は、せいぜい二、三人にすぎなかったものの、「十二階下」から千束通りにかけて、二〇〇〇軒におよぶ「銘酒屋」が立ち並んでいたという。

浅草は、前掛けをかけ、鳥打ち帽をかぶった小僧さんが目立ったように、大衆に愛された町だった。帝劇で不発だったオペラを一躍大ヒットさせ、「浅草オペラ」という独特のものに育ててしまう熱気と活力が、多くの人をひきつけた。

台東区立下町風俗資料館の元館長、まつもと・かずや氏は、浅草の魅力をこう説明する。

「浅草が東京一の盛り場となった理由として、まず、観音様に対する庶民の絶大な信仰心があげられます。もうひとつは、江戸時代から引き継がれた奥山の興行師の腕でしょう。新しいものにいち早く目をつけ、たちまち取りこんでしまう異能の持ち主が彼らでした。映画が登場した時も、どこよりも早く興行化に成功しました。伝統的な情緒を一方にとどめながら、モダンな大衆娯楽が花咲いたところに、浅草繁栄の要因があったのです」

関東大震災によって「凌雲閣」は、八階から真っ二つに折れ、工兵隊の手で爆破解体の憂き目を見る。そして六区の興行街も壊滅的な被害をこうむった。その後、復興した浅草からは江戸の名残が姿を消し、エノケンをはじめとする軽演劇と映画の全盛時代が始まるのである。

▲明治一四年に作られた、新吉原大門から見る仲の町。撮影は明治二〇年前後。

女たちの肖像

失恋と生活難に苦しみ続け 名作「たけくらべ」発表後 樋口一葉、二四歳で死去！

稲葉真弓

明治の文壇は、与謝野晶子、山川登美子ら"もの書く女"を産んだが、江戸の名残濃い一九世紀末を生き、後々まで"考察"に値する作品を残した女性作家を一人だけあげるとするなら、樋口一葉だろう。彼女の生涯は、わずか二四年と六ヵ月。活躍した期間も六年余にすぎないが、文学的業績の輝きは、没後一〇〇年を経た後も衰えてはいない。短い年月を小説を書くことで疾走し、日本文学史上に金字塔を打ち立てた彼女が作家をめざしたのは、皮肉にも貧苦から脱却したいという思いからだった。

樋口一葉（本名＝なつ・奈津、夏子ともいう）は、明治五年三月（太陽暦五月）東京・内幸町に六人兄妹の次女として生まれた。役人の父親は学問や詩歌好きで、一葉も七歳の頃から絵草紙（絵入りの小説本）に親しみ、青海学校小学高等科を首席で卒業した。母の反対で進学は断念したが、父のとりなしで一四歳の時、歌人・中島歌子の萩の舎に入塾し、和歌や書道を学んだ。

▶最も優れた作品は、日記という評価もある。

明治二二年、父親が病死。その死で一葉の婚約話も破談となり、一家はたちまち困窮した。萩の舎の内弟子となったのは翌二三年、同塾の先輩、田辺花圃（龍子）が文壇で脚光をあびている最中だった。女中めいた仕事をしながら小説を書き始めていた一葉は、自分も花圃のように原稿料で生活したいと、作家を夢見るようになった。

一葉の文学は、小説家であり「東京朝日新聞」記者の半井桃水との関係を抜きにしては語れないが、彼女が一二歳年上の半井に出会ったのは明治二四年春のことである。作品の指導を受けるため彼の自宅に出入りするうちに芽生えた恋の感情は、彼女の日記に明らかだが、作家としての出発もまた、半井の主宰する同人誌「武蔵野」だった。二五年、同誌に「闇桜」「五月雨」を発表した彼女は、半井と絶交したり恋心を募らせたりしながら、「経づくえ」「うもれ木」などを発表。「うもれ木」は文壇で絶賛されたが、原稿料は生活費に消え、二六年には母親や妹と雑貨屋を開いた。

一葉の名作が生まれるのは、商売に失敗、借金を重ねながら、再度、作家活動を始めた明治二七年からである。「文学界」に発表した「大つごもり」が大きな評価を受け、代表作「たけくらべ」「にごりえ」などを次々と発表。名声も高まり栄光の絶頂にあったが、肺結核に冒され、二九年一一月、妹にみとられて死去した。

勝者・敗者

"国内敵なし"一高野球部が 打って打って、打ちまくり 初の国際試合は二九対四！

阿部珠樹

野球の始まりには諸説あるが、ごく大まかに跡づけると、日本に持ちこまれたのが明治五年、一〇年代にはクラブチームが発足、二〇年代には第一高等学校が黄金時代を迎えたというのが定説と言える。

明治二〇年代、国内に敵なしの一高が、外に強豪を求めたくなるのは当然である。しかし、現在のように、高校生が気軽に外国遠征に出かける時代ではもちろんない。そこで考えついたのが、日本在住の外国人クラブチームとの対戦だった。近代スポーツが日本に導入されたきっかけは、外国人クラブがやっているのをまねて、というケースが多く、ラグビーなどのように最初の試合が日本チーム対外国人チームというケースも少なくない。その点、野球は国内チーム同士の試合で始まっており、異色と言えた。

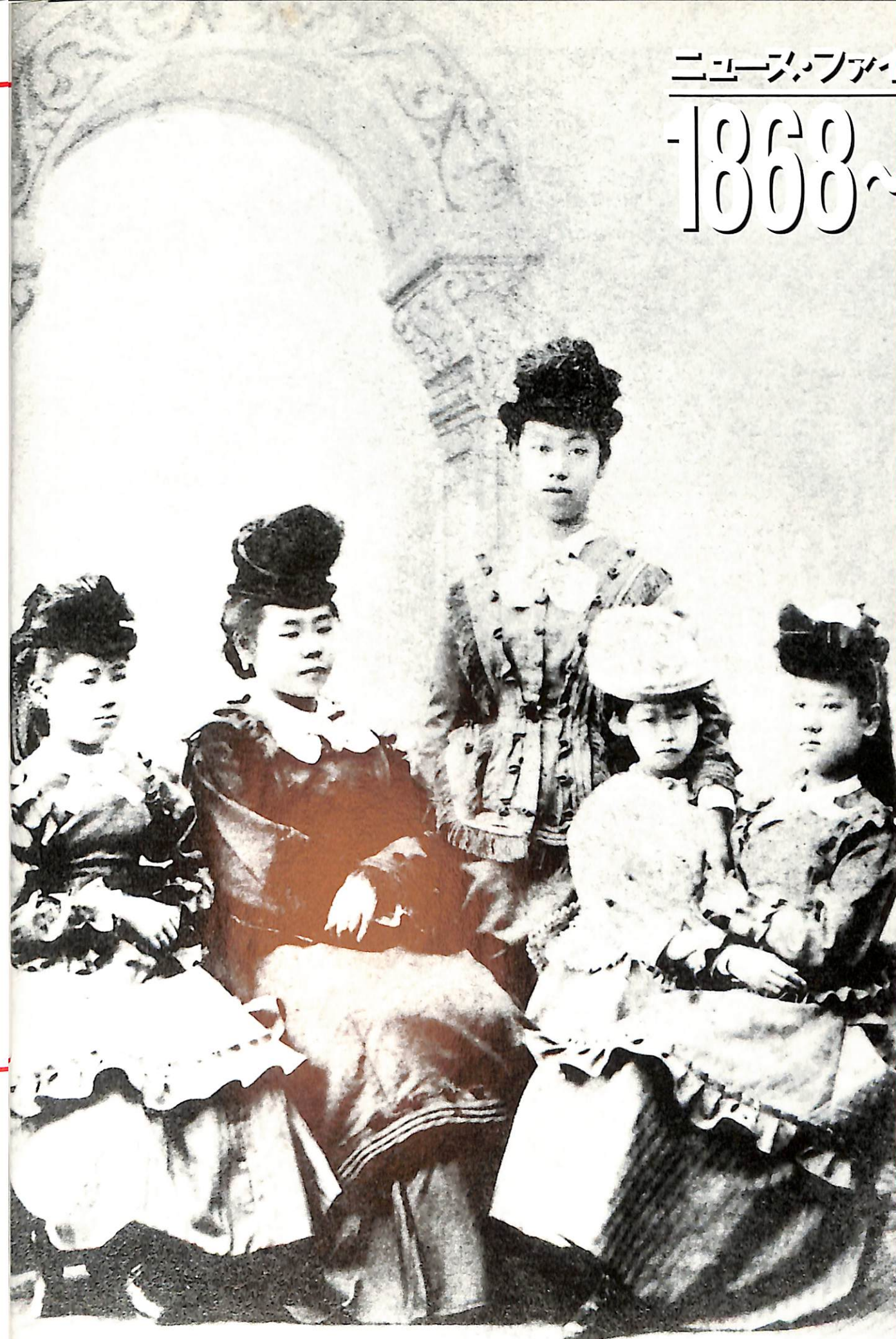
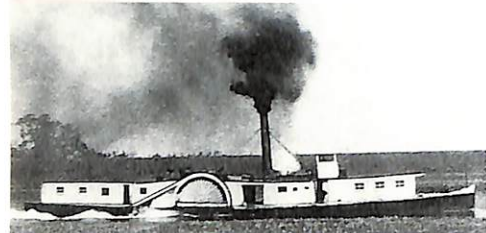
それはさておき、日本最強の一高が相手に選んだのは横浜の外国人クラブ。場所はなんと、現在、横浜ベイスターズの本拠地となっている横浜スタジアムのあるところ、当時は横浜公園と呼ばれていた場所だった。

記録によると、試合が行われたのは、明治二九年の五月二三日午後三時から。初回に四点を先制され、大差の負けも予想された一高だが、その後すばらしい反撃を見せ、打って打って、打ちまくり、あげた得点は実に二九点。初回、「日本初の国際試合」という大舞台に緊張して点を取られた一高のエース・青井鉞雄（当時・二三歳）が立ち直り、二回に得意の快速球と当時の"魔球"とも言うべきカーブを駆使して三者三振を奪うなど力投、得点を許さない。

結局、二九対四の大差で一高が勝ち、初の国際試合は、日本側の大勝利という結果になった。一高は、六月五日、同じ相手の挑戦を受けた再試合にも大勝し、一高時代を揺るぎないものにする。平成一〇年、ベイスターズ優勝に沸いた横浜スタジアムは、一世紀前にも、同じグラウンドが野球ファン熱狂の舞台になっていたのである。

▲前列左から二人目が青井鉞雄。前年、試合を申し込んだ時には、「野球はわが国の国技なり。われ等の軀幹諸君に倍す」との理由で断られていた。

毎日新聞社

▲▼京都に日本初の小学校（明治2年6月30日）学制発足前に府が、1番組（町）1校を原則に、この年、64校を開校。寄付金で設立した小学校会社が経営した。写真下は、先駆となった上京第27番組小（現・柳池小）で、番組の役場も兼ねた。上は塩津寛一郎初代校長。

▲戊辰戦争勃発（慶応4年1月27日）大政奉還のうえ、領地返納を迫られた徳川慶喜は、ついに鳥羽・伏見で、新政府軍の薩長軍と激突、内戦に突入した。写真は、最新鋭を誇る薩摩の鉄砲隊。

▲淀川に外輪船就航（明治元年）大阪－伏見間を往復。船腹に推進車をつけた蒸気船で、上りは6時間、下りは3時間半。従来の和船を駆逐、明治9年の鉄道開通まで、京阪交通の中心を担った。

▲本格的洋式ホテル誕生（明治2年1月1日）東京・築地の外国人居留地に築地ホテルが開業。2階建て、客室102室。貿易所を兼ね、2代目・清水喜助が建設。洋風建築の出発点となった。

毎日新聞社

▶山県有朋（31）ら渡欧（明治2年6月）先進国の文化摂取を痛切に感じ、欧州の特に軍制を視察。翌年8月に帰国した。写真は、長崎出発時で、右から二人目が山県。左隣は同行の西郷従道（26）。

『開国八十年史』

◀京大の前身、開校（明治2年7月18日）新政府が大阪に舎密（セイミ）局を開校、初の理化学教育を行った。「舎密」とはオランダ語で理化学の意味。後に京都へ移転。写真中央は、外国人教師のボードウィン。

毎日新聞社

慶応4～明治2年

1868

1月3日●明治天皇臨席し、宮中で「王政復古」の大号令。
1月27日●新政府軍、旧幕府軍と鳥羽・伏見で戦闘開始。戊辰戦争始まる（28日、旧幕府軍敗退）。
2月22日●新政府、京阪の豪商に三〇〇万両募債を要求。
4月6日●天皇、「広く会議を興し万機公論に決すべし」など、「五箇条の誓文」を発布。
4月20日●神仏分離令を制定。排仏毀釈運動起こる。
5月3日●江戸開城（9月3日、江戸を東京とする詔書）。
5月17日●ハワイへ契約移民として邦人一二〇人渡航。
5月22日●英政府、日本の新政権を承認。列国では初。
6月7日●新政府、長崎で浦上キリシタンを弾圧。信徒約四〇一〇人を諸藩三四家に分付の命令。
6月9日●新政府、太政官札五種を発行し産業興隆をはかるよう布告。諸藩、豪農商に貸し付ける。
7月4日●東京・上野で新政府軍に彰義隊が敗北。
10月8日●新政府軍、会津若松城を囲む。会津藩白虎隊、飯盛山で自刃（11月6日、開城降伏）。
10月12日●明治天皇即位の礼挙行（23日、明治と改元）。
11月4日●天皇、東幸のため京都出発（11月26日東京着、江戸城を皇居とし東京城と改称）。
12月26日●新政府、火刑・磔刑を廃止。

1869

1月1日●新政府、東京・築地に外国人居留地を設置。
1月27日●蝦夷地（9月北海道と改称）を占領した旧幕府軍、総裁・榎本武揚ら役人任命。「共和国」発足。
2月11日●初の洋式灯台・観音崎灯台に点火。
2月15日●参与・横井小楠、キリスト教蔓延の元凶と京都で暗殺（10月、兵部大輔・大村益次郎も）。
2月27日●開成所、仏・英人を教師として授業開始。
3月2日●新政府、諸道の関所を廃止。
3月17日●新政府、新貨鋳造を決定し、太政官に造幣局設置（7月8日、造幣寮と改称）。
3月31日●東京府、男女混浴・春画販売など禁止令。
4月5日●太政官を東京に移すことを布達（事実上、東京遷都が決定）。
5月10日●米国で大陸横断鉄道が完成。
6月22日●新政府、出版条例を定める。出版許可制、政府誹謗・風俗壊乱禁止など。
6月27日●蝦夷・五稜郭開城、榎本武揚以下が降伏（戊辰戦争終わる）。
6月30日●京都の上京第二七番組小学校、開校式。
7月25日●諸藩の版籍奉還を実施。藩主を知藩事に任命。
8月6日●東京・九段に招魂社創建、戊辰戦争戦死者を祀る（明治12年、靖国神社と改称）。
11月17日●スエズ運河が正式に開通。

ニュース・ファイル

1868～1899

フォト＋日録で再現する明治元年から三二年

明治維新政府は戊辰戦争・西南戦争を経て反対勢力を駆逐、近代国家形成へ邁進した。欧米化と「富国強兵」を急ぎ、琉球処分、朝鮮進出……、明治二七年には日清戦争に突入。日本は二〇世紀を目前に、念願の列強との不平等条約撤廃を達成、ついに国際舞台に登場した。

◀日本初の女子留学生（明治4年12月23日）「婦女子の範たれ」の皇后沙汰書を手に、5人が「岩倉遣米欧使節団」に随行。10年間、留学した。写真は翌年、米国で。左から3人目が山川捨松（11）、右隣が津田梅子（7）。

津田塾大学提供

▲**大阪初の鉄橋登場(明治3年9月22日)** 2年前の洪水で木橋が流失したのを機に、大阪城の外堀、東横堀川の高麗橋を架け替え。長さ64メートル、英国製鉄材使用の橋が開通した。

「郵政百年史」

▶**郵便制度スタート(明治4年4月20日)** 大蔵省の前島密(36)が発案。欧米にならいポストを設置、東京ー京都ー大阪間を馬車輸送した。右は初期の「書状集箱」、左は明治5年から設置の「郵便函」。

内田九一

▲**文明開化のシンボル誕生(明治5年10月24日)** 東京・兜町に和洋折衷の木造5階建て、「三井組ハウス」が完成。たちまち東京の新名所に。翌年設立の第一国立銀行が借り受け、使用した。

◀**琉球国から慶賀使(明治5年10月16日)** 維新政府の要請で、伊江王子(写真中央)を正使とする一行が来日。天皇は国王・尚泰を藩王に任命。明治12年の「琉球処分」の始まりだった。

▶**岩倉使節団、欧米へ(明治4年12月23日)** 不平等条約改正と、先進文化の摂取をめざし、岩倉具視(47)ら政府首脳が出発。写真左から木戸孝允、山口尚芳、岩倉、伊藤博文、大久保利通。

◀**新橋ー横浜間に鉄道開通(明治5年10月14日)** 英人・モレルらの指導で念願達成。翌日から英国製蒸気機関車(写真)と、客車が1日9往復の運転を開始した。

明治3~7年

1870

- 1月26日●東京ー横浜間の電信開通し公衆電報の取り扱いを開始。電信事業の創業。
- 2月3日●大教宣布の詔。神道で国家思想の統一はかる。
- 2月26日●長州藩の奇兵隊など諸隊解散措置に不満の兵士千余人が藩庁を包囲(3月、藩兵が鎮圧)。
- 3月6日●政府、華族の染歯・かき眉を禁止。
- 3月24日●東京府、和泉要助らに人力車の製造を許可。
- 4月27日●三河で浄土真宗信徒三〇〇〇人が、排仏毀釈政策に反対し「護法一揆」を起こす。
- 9月8日●政府、在留中国人で、日本人の子どもを買い取って海外へ売るものの厳重取締りを命令。
- 9月22日●大学南校、初の留学生として目賀田種太郎ら四人を米国へ派遣。
- 10月13日●平民の苗字使用が認められる。
- 10月26日●兵制を統一。海軍は英式、陸軍は仏式に。
- 11月2日●岩崎弥太郎、土佐開成商社設立、汽船回漕業開始(12日、九十九商会と改称、三菱商会の前身)。
- 12月12日●工部省設置。殖産興業策を推進。

1871

- 3月14日●東京ー京都ー大阪間に郵便開始決定(4月20日、第一便。所要時間、約四〇時間)。
- 3月28日●労働者の自治政府、パリ・コミューン成立。
- 4月2日●薩・長・土の藩兵六二七五人で親兵を編成。
- 6月27日●新貨条例を制定。新貨幣は円・銭・厘の十進法で、旧貨幣の一両を一円とする。
- 8月29日●廃藩置県の詔書発布。三府、三〇二県が成立。
- 9月23日●散髪・廃刀の自由を認める(明治9年廃刀令)。
- 10月7日●華族・士族・平民相互の結婚を許可。
- 10月20日●政府、田畑勝手作を許可。作物制限を撤廃。
- 11月15日●宗門人別帳(寺請制度)を廃止。
- 12月23日●岩倉具視、大久保利通ら遣米欧使節団、横浜を出発。初の女子留学生・津田梅子らも随行。

1872

- 3月8日●政府、初めて全国の戸籍調査を実施。総人口三三一一万八二五人(壬申戸籍)。
- 3月23日●土地の永代売買禁止を解除。
- 3月29日●「東京日日新聞」創刊(現・「毎日新聞」)。
- 4月5日●兵部省を廃し、陸・海軍省を設置。
- 5月4日●神社仏閣の女人禁制を全面的に廃止。
- 5月8日●東京府、町火消しを全廃し消防組三九組編成。
- 6月28日●天皇、中国・西国巡幸のため東京出発(8月15日帰京。全国巡幸の始まり)。
- 9月5日●文部省、学制を公布。初等教育重視、個人主義、男女同一、全国統一の学校制実現を掲げる。
- 10月14日●新橋ー横浜間の鉄道開業式。日本初の鉄道。
- 10月31日●横浜にガス灯十数基が国内で初めて点灯。

「開国八十年史」

▼**清水次郎長(54)、富士南麓を開墾(明治7年)** 東海道筋の博徒の大親分が、静岡藩藩政改革にあたっていた山岡鉄舟の指導で、政府の殖産奨励事業に協力。開墾は成功、次郎長町という字名を残した。

▶**富岡製糸場が創業(明治5年11月4日)** 生糸を主要輸出品にという政府方針により、官営で出発。仏人技師を招き、技術向上と増産をめざした。職工には士族の娘が多く、後に指導者として各地に散った。

▼**日本軍、台湾に出兵(明治7年5月22日)** 漂着した琉球島民の殺害を盾にとり、西郷従道(31)が遠征軍を率いて侵攻。清国は出兵を「義挙」としたが、琉球の日本帰属は否認。写真は宿舎前で、2列目中央が西郷。

▲**徴兵令公布(明治6年1月10日)** 国民皆兵をうたったが、官吏や戸主を免除、代人を認めるなど抜け道は多かった。このため、負担は農村部に集中、各地で徴兵反対一揆が続発した。写真は、翌年の第1回徴兵検査を受けた壮丁。

◀**開拓使本庁が完成(明治6年10月)** 北海道・札幌に、3階建ての西洋建築が誕生。黒田開拓次官らと、米国農務局長・ケプロンら70人余の外国人が、広大な原野の資源調査・産業開発をめざした。

北海道大学附属図書館提供

▼**釜石鉱山に高炉完成(明治7年)** 政府は近代産業の育成を期し、さまざまな分野に官営工場を建設した。官営釜石鉱山も、新鋭高炉を英国から輸入、生産増強をはかった。

- 11月4日●官営模範工場、群馬・富岡製糸場が開業。
- 12月14日●京都府、仏・リヨンに西陣の織工を派遣。
- 12月15日●国立銀行条令を定め、民間の銀行設立を許可。

1873

- 1月1日●太陰暦一二月三日のこの日から太陽暦を実施。
- 1月10日●徴兵令布告。適用除外規定多く、農民の負担が重くなったため、各地で反対騒乱が起こる。
- 2月2日●佐倉順天堂、東京に開院。初の民間病院。
- 2月7日●仇討ちが禁止される。
- 2月18日●東京ー長崎間の有線電信工事が完成。
- 3月3日●皇后、お歯黒をはぎ、眉墨を落とす(20日、天皇、率先して断髪)。
- 4月1日●郵便料金の全国均一制実施(12月1日、はがきと切手つき封筒を初めて発行)。
- 5月1日●ウィーン万国博覧会開幕(~11月2日)。日本出品の美術工芸品が好評。
- 6月11日●第一国立銀行設立(8月、国立銀行紙幣五種を発行、金貨と同一使用を公告)。
- 7月28日●地租改正条令を布告。土地価格を決め、所有者に地価の三%を金納で課税。
- 8月1日●大阪で天王寺公園、住吉公園が開園。
- 9月13日●岩倉具視ら遣米欧使節団帰国。
- 10月14日●紀元節など八祝祭日を定め休日とする。
- 10月24日●西郷隆盛、朝鮮派遣の無期延期で参議を辞任(25日板垣退助ら四参議も。明治6年の政変)。
- 11月10日●内務省を設置。警察・地方行政の全権集中。

1874

- 1月17日●副島種臣・後藤象二郎・江藤新平・板垣退助ら退官の八人、民撰議院設立建白書に署名。
- 2月1日●江藤新平ら佐賀の士族、反政府蜂起(18日県庁占拠。3月1日政府軍が鎮圧。佐賀の乱)。
- 3月13日●東京に官立の女子師範学校設立(翌年開校)。
- 4月10日●板垣退助ら、高知に自由民権運動の政治結社・立志社を創立(後に自由党に発展)。
- 5月11日●大阪ー神戸間の鉄道開通(明治9年京都間も)。
- 5月22日●西郷従道、兵三六〇〇人を率い台湾上陸(12月撤兵。戦病死者五六一人。初の対外軍事行動)。
- 5月28日●大蔵省、銀行学局を設置。英人講師を招き簿記学などを教授(初の近代的商業教育)。
- 6月7日●教部省、禁厭・祈祷を医療妨害と取締り通達。
- 6月27日●東京・三田の慶応義塾で福沢諭吉・小幡篤次郎らが第一回演説会(演説会の初め)。
- 7月13日●東京府、道路・車内でのほおかぶり、手拭かぶりなど禁止。
- 12月8日●恤救規則制定。都市貧民急増で初の救護制度。
- 12月25日●築地の東京第一長老教会で日本初のクリスマス祝会開催。

▲国産軍艦第1号「清輝」竣工(明治10年6月22日)当初2600トンで計画されたが、資材不足から897トンに減量。全長61メートル。横須賀造船所建造の鉄骨木造プロペラ船。西南戦争に従軍した。

北海道大学附属図書館提供

▲屯田兵第1陣、開墾に着手(明治8年5月)士族授産と北方防備を目的に募集。宮城・青森などの士族198戸965人が、札幌郊外琴似村に入植した。写真はその記念撮影。明治37年の廃止までに、4万人に達した。

◀銀座煉瓦街が完成(明治10年)明治5年の大火後、政府は欧化政策を掲げて都市改造に着手。英国人・ウォートルスの指導で、銀座を「文明開化」を象徴する煉瓦の街並みに変貌させた。

▼クラーク博士(50)、来日(明治9年7月31日)教育を重視した開拓使が、札幌学校開校のため、米国から教頭に迎えた。写真後列中央が博士。滞日わずか8ヵ月間だったが、その影響は大きかった。

毎日新聞社

▲東京大学誕生(明治10年4月12日)初の官立大学として東京開成学校と、東京医学校を再編成、神田に法・理・文学部と、予備門(写真)、本郷に医学部がおかれた。

▼第1回内国勧業博覧会開く(明治10年8月21日)西南戦争中だったが大久保利通(48)は、国産奨励を掲げて強行。上野公園会場に八万余点が出品された。写真中央、大礼服姿が大久保。

明治8~12年

1875

1月4日●維新以来中絶の出初式が復活。消防組を集め、警視庁練兵場で挙行。

2月13日●平民もかならず姓をつけるように布告。

4月10日●東京で天然痘流行。前年来三四二四人が罹患。

5月2日●東京と横浜で郵便貯金創業(10月京阪神でも)。

5月7日●千島・樺太交換条約、ペテルブルグで調印。

5月23日●都市人口膨張で火葬禁止の解除令。

6月1日●東京気象台設立。毎日三回の観測を開始。

6月28日●反政府運動取締りのため新聞紙条例を制定。

7月11日●田中久重、東京・新橋に田中製造所を設立、電信機械を製作(芝浦製作所の前身)。

7月18日●文部省、第一回海外留学生を派遣。小村寿太郎、鳩山和夫、古市公威ら一一人。

11月27日●教部省、神・仏各宗に対し信教の自由を通達。

11月29日●新島襄ら、同志社英学校(現・同志社大)を創立。

1876

2月14日●米国のベル、電話で初めて肉声を伝える。

2月26日●日朝修好条規を締結。釜山などの開港、日本からの輸入品無関税など、不平等条約。

3月12日●官庁、一・六休暇(毎月1と6の日を休む)廃止、土曜半休・日曜全休に(4月から実施)。

3月25日●大阪府立書籍館が開館。大阪で初の図書館。

3月28日●軍人、警察官などのぞき、帯刀禁止(廃刀令)。

5月9日●東京・上野公園が開園。

6月7日●独の医学者・ベルツ来日(二九年間滞日)。

7月1日●私立銀行では最初の三井銀行が開業(7月29日、三井財閥の中核企業、三井物産創立)。

8月14日●札幌学校、開校式(9月、札幌農学校と改称。クラークが教頭として指導にあたる)。

8月20日●東本願寺、上海に別院創建(海外布教の初め)。

8月29日●高橋お伝、東京・蔵前の丸竹旅館で商人・後藤吉蔵を殺し逃走(明治12年、斬罪)。

10月17日●政府、小笠原諸島領有を各国に通告。

10月24日●熊本の士族、開明政策反対で熊本鎮台を襲撃。神風連の乱(27日秋月の乱、28日萩の乱)。

11月14日●東京女子師範学校内に初の近代的幼稚園開設。

11月15日●福沢諭吉、「学問のすゝめ」完結。

12月19日●三重・飯野郡で地租値上げに反対の農民一揆。四日市支庁など焼く(23日、処罰五万人余)。

1877

1月4日●政府、全国的な地租改正反対一揆の激化から、地租を〇・五㌫減じ二・五㌫に軽減。

2月13日●東京警視庁、流行の楊弓店が風紀を乱す傾向ありとして楊弓店取締規則を制定。

2月15日●鹿児島の士族ら、西郷隆盛擁し、「政府に尋問の筋あり」と挙兵(22日熊本城包囲。西南戦争)。

5月1日●佐野常民ら、西南戦争の医療救助団体として熊本に博愛社創立(後の日本赤十字社)。

6月1日●万国郵便連合条約に加入調印。郵便が国際化。

6月22日●海軍横須賀造船所で初の国産軍艦「清輝」竣工。

8月21日●第一回内国勧業博、上野で開会。工芸品など八万余点展示(~11月30日。四五万人入場)。

9月16日●モース、東京・大森貝塚で初の学術的発掘。

9月24日●鹿児島で西郷隆盛ら自刃(西南戦争終結)。

12月21日●工務省と宮内省間でベル発明の電話機を設置。

1878

3月12日●渋沢栄一ら出願の東京商法会議所設立を認可。

3月25日●東京で電信中央局と国際電信開業式。祝宴会場で国内初の電灯、アーク灯を点灯。

4月13日●「団々珍聞」、開拓長官・黒田清隆が妻を斬殺したとの噂を風刺(発行停止処分となる)。

5月14日●大久保利通、東京・紀尾井町で刺殺される。

5月15日●東京株式取引所の設立免許(6月1日開業)。

6月7日●東京・新富座が新装オープン。舞台内外にガス灯など近代的設備。

6月8日●第一国立銀行、釜山支店開業(日本の銀行では初の海外進出)。

7月10日●東京・神田に府立脚気病院設立。

7月15日●箱根の外国人専用ホテル「富士屋ホテル」開業。

7月28日●英人・ガウランド、槍ケ岳に登頂。外国人初。

8月10日●フェノロサ、東京大学文学部教授に就任。

8月23日●近衛砲兵隊が俸給削減などに反対し暴動、大隈重信邸に発砲(24日、鎮圧。竹橋騒動)。

10月20日●滋賀・逢坂山トンネル工事で削岩機を初導入(12月箱根鉄道開削用にダイナマイト初輸入)。

12月5日●参謀本部条例を制定。軍令に関する事項は参謀本部長が管轄。統帥権独立の発端。

1879

1月25日●大阪で「朝日新聞」、創刊。

3月14日●松山にコレラ発生、全国に蔓延(この年、明治期最大規模の流行、一〇万五七八四人死亡)。

3月20日●東京府会が開会(府県会規則による最初の府県会。各府県会も相次いで開会)。

4月4日●琉球藩を廃し沖縄県とする布告(琉球処分)。

5月21日●長崎造船所で東洋最大の立神船渠が竣工。

6月16日●仏教慈善団体の福田会、東京に孤児院を創立。

7月10日●海軍が初めて英国に発注の「扶桑」「金剛」「比叡」三艦が回航され、横浜で天覧。

8月31日●明宮嘉仁親王(後の大正天皇)誕生。

10月7日●文部省、音楽取調掛(東京芸大の前身)を設置。伊沢修二を御用掛に任命。

11月30日●松方正義ら幹事の共同競馬会、陸軍戸山学校で第一回競馬会を開催。

証言・あの日この日
福地桜痴(27)

慶応4年7月7日〈然るに此年五月十五日上野の戦ありて後に、此江湖新聞の筆禍は正に近く余が身にあるべしと密告し、余が遁逃を勧めたる朋友もありしが、余は年少の客気に誇りて此忠告に従はざりしに、果たして五月十八日(太陰暦)に至り逮捕せられたり〉(福地桜痴「新聞紙実歴」)

若くして2度の洋行を体験し、万国公法(国際法)にも通じ、幕府の外国方として活躍していた福地桜痴も、この頃、幕府瓦解を目前にして、なすすべもなかった。そこで、柳河春三の「中外新聞」の成功に刺激され、みずからも新聞発刊を思いたつ。5月24日「江湖新聞」を発刊。そこで佐幕派的立場から立憲政治論を唱える。しかし、あまりにも露骨に幕府を擁護し、薩長を批判したため、この日、逮捕されるが、木戸孝允の働きで放免された。この事件は新聞筆禍事件の第1号となった。(山崎行太郎)

毎日新聞社

▲日本人機関士デビュー(明治12年4月)鉄道の発達は著しかったが、技術のすべてを外国人にたよった。写真は160型機関車と、技術を修得した平野平右衛門(左端)ら。

▼長崎造船所立神船渠、完成(明治12年5月21日)仏人・フロラン指導で5年前に着工。礎石に「明治八年築焉、工部卿伊藤博文」とある。長さ130メートル、東洋一と言われ、後に三菱に譲渡。

◀「高橋お伝」(29)、死刑(明治12年1月31日)旅館で呉服商を殺害、金品を奪ったとして市ケ谷監獄で斬首。以前にも夫を殺害していたと言われ、「稀代の毒婦」と喧伝された。

▼気球、天覧(明治11年6月10日)天皇臨席の陸軍士官学校開校式に、布製の長さ16、幅9メートルの気球が上がった。前年来、陸軍の依頼で、馬場新八が実験を重ねていた。

▼フェノロサ(26)、東大教授に就任(明治11年8月10日)お傭い外国人教師として米国から来日。日本美術の再認識を強調した。右・フェノロサ。左は高弟・岡倉天心。

毎日新聞社

『開国八十年史』

毎日新聞社

▲村田銃、陸軍制式銃に(明治13年3月30日)陸軍少佐・村田経芳(41)が開発。国産初の制式銃となり、兵器統一・国産化を促進した。写真は、改良を加えた村田連発銃をかまえる村田。

▲「弁慶号」走る(明治13年11月)開拓使・幌内鉄道の手宮(小樽)—札幌間用に、米国・ポーター社から「義経号」とともに輸入。全長12メートル。大正13年引退、現在、東京の交通博物館で展示。

▶国産技術で完成した初の山岳トンネル(明治13年6月28日)京都—大津間の逢坂山トンネルが貫通。これを機に、鉄道工事は外国人の手を離れた。全長665メートル。7月、東海道線が全通した。

▲木造外輪船「迅鯨」竣工(明治14年)明治天皇の御召し艦として設計されたが、試運転で損傷、波浪の激しい外洋には不適当と判明。1464トンの、最初で最後の豪華な外輪汽船だった。

▶憲兵隊創設(明治14年3月11日)東京に司令部をおき、軍人・軍属にかかわる犯罪の捜査が主業務。後に民衆運動に介入するようになった。写真は、創立期の東京憲兵第一大隊の将校ら。

▲真土村事件に有罪(明治13年)地租改正に反対した神奈川・真土村村民が、地主ら7人を殺害したため斬罪を含む判決。しかし明治22年、全員特赦。写真はその記念。

明治13~16年

1880

2月28日●横浜正金銀行開業。貿易用金融が目的。

3月30日●陸軍省、村田経芳作製の小銃「村田銃」を軍用に指定。初めての軍器制式。

4月5日●集会条令制定。政治集会・結社は警察署の事前許可を必要とするなど民権運動を弾圧。

4月26日●日本地震学会、設立総会。会員一一七人、うち外国人八〇人、会長・服部一三。

7月6日●外務卿・井上馨、米・清国をのぞく各国公使に条約改正案交付。

7月17日●刑法布告(明治15年1月施行)。身分による刑罰の相違を廃止。重罪・軽罪・違警罪に分類。

8月7日●新潟大火、六二〇〇戸焼失。

9月27日●酒税税則を制定。造石税などを増税(各地に反対運動起こる)。

10月15日●独のケルン大聖堂竣工。着工以来六三二年。

10月25日●宮内省雅楽課が「君が代」作曲(11月3日、天長節宮中御宴で初演奏)。

11月5日●工場払下概則を制定。内務省・工部省などに官設工場の漸次民有化を命令。

11月28日●幌内鉄道の札幌—手宮(小樽)間全通、米国から輸入の「弁慶号」が牽引。

12月17日●福岡県人・臼井六郎、東京・京橋で父母の仇を殺害し自首(最後の仇討ち)。

12月28日●教育令改正。国家統制、男女別学を強化。

1881

1月26日●東京・神田から出火、一万一〇〇〇戸焼失(明治期最大の火災で銀座煉瓦街建設の端緒)。

2月7日●仏人・レセップス、パナマ運河着工。

3月11日●憲兵条例を制定。軍事警察官の憲兵隊を設置。

4月5日●大日本農会設立。小農政策推進と農事改善を促進(12月17日、大日本水産会を設立)。

5月2日●海軍横須賀造船所で第一号水雷艇が竣工。

7月8日●明治生命保険会社設立、初めての生保会社。

7月21日●閣議、北海道開拓使官有物の払い下げ決定(10月、御前会議で廃止決定。明治14年の政変)。

7月31日●福島県山潟村で安積疏水の通水式挙行。

10月12日●明治23年に国会開設するむねの詔書。

10月18日●自由党結成。「自由拡充・社会改良」を掲げる(11月29日、板垣退助を総理に選出)。

10月21日●松方正義を大蔵卿に任命(松方財政スタート)。

11月11日●初の私鉄として日本鉄道会社設立。

1882

1月4日●軍人勅諭を発布。忠節・礼儀などを掲げ、大元帥としての天皇への絶対的服従を説く。

1月15日●仏人画家・ビゴー来日(陸軍士官学校教師に)。

2月8日●北海道開拓使を廃止。札幌県など三県設置。

毎日新聞社

◀馬車鉄道が開通(明治15年6月25日)東京・新橋—日本橋間でレール上の客車を馬が引いた。10月に浅草・雷門まで延長。馬糞が悩みの種だったが、明治末に市電が開通するまで、重要な交通機関だった。

▼板垣退助、岐阜遭難(明治15年4月6日)自由党総理として演説を終え、宿舎に向かう途中、勤王主義者・相原尚褧(写真右)に、短刀(写真左)で刺され重傷。その時、板垣(44)は「板垣死すとも自由は死せず」と叫んだと言われる。

▶キリスト教会幹部、集合(明治16年5月)明治6年の解禁以来、信者は4300人を超え、第3回信徒大親睦会は昂揚した。写真前列右端・海老名弾正、2列目左から5人目が内村鑑三、その右隣が新島襄。

▼鹿鳴館、華やかに開館(明治16年11月28日)東京に英人・コンドル設計、煉瓦造りの西洋風建築が登場。舞踏室は連日、各界の紳士淑女でにぎわい、外務卿・井上馨(47)らの欧化政策を体現した。

毎日新聞社

▶上野動物園が開園(明治15年3月20日)上野博物館の一部として、東京・上野公園西端の約1万平方メートルに設置。翌年には熊・水牛・サルなど49頭、鳥類136羽が在園、象など大形獣は6年後からだった。大正13年、公園とともに東京市に下賜された。

毎日新聞社

▼日本銀行オープン(明治15年10月10日)旧開拓使東京出張所の建物を借りて、中央銀行がスタート。初代総裁・吉原重俊。大蔵卿・松方正義指導のもと、紙幣整理を強行し通貨安定をはかった。

2月14日●流行の玉突き賭博を一斉摘発、六八六軒、二千三百余人を検挙。

3月20日●上野博物館・動物園が開園。

3月24日●独のコッホ、結核菌の発見を学会で報告。

4月6日●自由党総理・板垣退助、遊説中に岐阜で襲われ負傷(12日、慰問の勅使が派遣される)。

4月16日●立憲改進党が結党式。総理・大隈重信。

4月25日●仏軍、ハノイ占領(翌年、全土を支配)。

5月3日●大阪紡績会社(現・東洋紡)設立。国内最大規模・最新技術の近代工場を建設。

6月5日●嘉納治五郎、東京・下谷に道場開く。初年の入門者は九人(明治21年、柔道を完成)。

6月25日●新橋—日本橋間に初の馬車鉄道が開通。

6月27日●日本銀行条令を制定。総裁・吉原重俊(10月9日開業免許、10日営業開始)。

7月24日●漢城(現・ソウル)で反閔・反日の軍隊が日本公使館を襲撃(壬午軍乱。日本と敵対)。

8月5日●戒厳令を制定。戦争などの国家非常事態に際し、軍隊に統治権限を与える。

8月11日●清原玉、帰国する前工部美術学校教授・ラグーザらとイタリア留学へ出発(後に結婚)。

10月21日●東京専門学校(早稲田大学の前身)開校式。

11月1日●東京電灯会社、開業の前景気に銀座でアーク灯を点灯。国内初公開で見物客が多数訪れる。

11月16日●沖縄県、謝花昇ら初の国内留学生五人を派遣。

1883

1月11日●東京の明治会堂で初めて西洋風舞踏会を開催。

3月1日●東京気象台、天気図を作成し毎日の配布を開始(5月26日、初めて暴風雨警報を発令)。

4月11日●文部省、農学校通則を制定。実業教育に関する文部省法令の初め。

5月1日●東京大学、英語による教授を日本語に改める。

5月5日●三池炭鉱で三池集治監の囚人労働開始(9月21日就労中の四人が暴動、放火で四六人死亡)。

7月1日●かな文字運動三団体、「かなのくわい」結成。

7月7日●東京・日比谷に鹿鳴館落成(11月28日開館式)。

7月28日●日本鉄道、上野—熊谷間で仮開業。

8月16日●干ばつのため和歌山の四八ヵ村が分水めぐり大騒乱(岡山、京都などでも水騒動続発)。

8月26日●大阪紡績、稼働率増加をはかり夜間作業を行う(この頃から紡績業の夜業が一般化)。

●インドネシアのクラカタウ火山が爆発し海没、三万六〇〇〇人死亡。世界各地で異常気象。

10月4日●オリエント急行、パリとイスタンブール開設。

10月12日●婦人運動家・岸田俊子、大津で「箱入娘」の題で女権拡大の演説、集会条令違反容疑で拘引。

▼**加波山事件起こる（明治17年9月23日）**凶作と重税にあえぐ農村の中で、自由党急進派16人が、爆裂弾で武装して挙兵。茨城県加波山山頂に「圧制政府転覆」の旗をひるがえした。後に7人が死刑。写真右は、刑死した富松正安。

▲**尾崎紅葉（17）ら硯友社結成（明治18年2月）**大学予備門の仲間、山田美妙、石橋思案らが、近代文学の確立をめざした。5月には同人誌「我楽多文庫」を創刊し文壇に登場した。写真前列右から紅葉、思案。

「開国八十年史」

▲**淀川大洪水（明治18年6月18日）**2日前からの豪雨で、枚方堤防が決壊。翌月2日に再び決壊して、被害は大阪全域に広がり、死者293人、流失家屋2万戸の大災害に。写真は流失した木造橋。

▲**女医第1号誕生（明治18年3月）**荻野吟子（34）が大学東校総長・石黒忠悳らの斡旋で、女性初の医師試験に合格。夫に移された性病治療の屈辱がきっかけだった。翌年、東京で産婦人科を開いた。

◀**高崎線が開通（明治17年5月1日）**日本鉄道会社が熊谷－高崎間を完成し、上野―高崎を4時間で結んだ。6月25日に上野駅で開業式を挙行（写真）、天皇（31）が昼餐をはさみ、往復乗車を楽しんだ。

▶**明治天皇、相撲見物（明治17年3月10日）**東京・芝で、大関梅ケ谷が新鋭の大達と水入りの大一番。天皇（写真左）を喜ばせ、衰微一途だった相撲人気復活の日となった。

「開国八十年史」

明治17～18年

1884

- **2月2日**●黒田清輝、仏留学へ出発（8月森鷗外も独へ）。
- **3月17日**●宮中に制度取調局を設置（長官・伊藤博文）、憲法・皇室典範の起草に着手。
- ●有坂鉊蔵ら東京・本郷弥生町の貝塚で土器を発掘（後に「弥生土器」と命名）。
- **6月1日**●警視庁、東京の派出所に天気予報の掲示開始。
- **6月25日**●岡倉天心、フェノロサが京阪地方の古社寺歴訪を命じられる（法隆寺・救世観音像を調査）。
- **6月30日**●警視庁、消防機器を整備、蒸気喞筒を消防本署に、腕用（人力）喞筒を各分署に配備。
- **7月6日**●工部省、長崎造船局を三菱に貸し下げ（明治20年払い下げ、21年三菱造船所と改称）。
- **7月7日**●華族令を制定。公・侯・伯・子・男の五爵に分け、政治家、軍人らにも功臣として授与。
- **8月25日**●台風で九州から東北にかけて一九九二人死亡。
- **9月23日**●自由党員ら一六人が茨城・加波山で革命の檄を配布し警官と交戦（七人死刑。加波山事件）。
- **10月17日**●東大生が隅田川でボートレース開催。
- **11月1日**●埼玉・秩父地方の農民組織・困民党が蜂起、郡役所など襲撃（11日、軍隊が鎮圧。秩父事件）。
- **12月4日**●漢城で親日派のクーデター起こる。竹添公使が日本軍を率いて王宮占領（甲申事変）。

1885

- **1月18日**●東京の学校生徒ら三〇〇〇人、上野公園で対清開戦の集会、非戦論の朝野新聞社にデモ。
- **1月27日**●第一回官約ハワイ移民九二七人、横浜を出発。
- **3月1日**●日本鉄道、品川―新宿―赤羽間を開業。
- ●海軍、脚気防止で米・麦等分の兵食供給開始。
- **3月16日**●福沢諭吉、「脱亜論」を「時事新報」に発表。
- **3月18日**●メッケル独陸軍少佐が陸軍大学校教官に着任、陸軍の軍制改革を指導（～明治21年）。
- **4月18日**●朝鮮問題で清と天津条約を締結。日本は清の宗主権を黙認し、清と対等の立場を確保。
- **5月2日**●尾崎紅葉・山田美妙ら、同人誌「我楽多文庫」創刊（明治21年、公売本を創刊）。
- **5月5日**●屯田兵条令を制定。北海道に屯田兵をおく。
- **6月24日**●坪内逍遥、『当世書生気質』を刊行。
- **6月28日**●東京に衛生・生活改善めざす婦人束髪会発足。
- **9月29日**●日本郵船会社設立（10月開業）。
- **11月28日**●英、ビルマ（現・ミャンマー）進出もくろみマンダレー侵攻（第三次ビルマ戦争）。
- **12月22日**●太政官制を廃し内閣制度を創設。内務など九省に整備。第一次伊藤博文内閣が成立。
- **12月27日**●関西初の私鉄・阪堺鉄道、難波―大和川間開業。
- **12月28日**●インドで国民会議創設され第一回大会。

「現場」を歩く 秩父

再評価が進む困民党の蜂起と農民「パワー」の爆発

山本徹美

群馬県
埼玉県
熊谷市
吉田町
東松山市
秩父市
川越市
飯能市
所沢市
山梨県
東京都

▲毎年10月、椋神社の境内では400年前から続く神事「大竜勢祭」が開催される。28ある流派が対抗して、手製ロケットを打ち上げ、高さと意匠を競う。 但馬一憲

明治一七年一一月一日午後四時頃から、秩父・下吉田村（現・吉田町）にある椋神社の周辺に野良着の上へ白たすき、白鉢巻き姿の農民が続々と参集。その数は約三〇〇〇人に達した。

「おおそれながら天朝様に敵対するから加勢しろ」

と、秩父近隣の農民に集結の号令を発したのは、秩父困民党である。総理は大宮郷（現・秩父市）の田代栄助。以下、副総理・加藤織平、会計長・井上伝蔵など主要メンバーは三八人。目的は高利貸に対し、貸金の半額放棄と、残金の無利息据え置きを要求、承認しなければ放火、打ち壊しに処すというもの。

蜂起の背景には負債農民の怒りがある。生糸価格の暴落はこの地方の養蚕・生糸農家を直撃。そこへ彼らをねらって高利貸が現れる。一年間で借金が元金の三倍にもなる高利を貪る業者がいて、困民党幹部らは郡役所に何度も高利貸説諭請願を提出したが、すべて却下された。

困民党軍は、秩父周辺の高利貸と郡役所などを襲撃。これに対して、埼玉県警官隊は東京憲兵隊や東京鎮台などの応援を受け鎮圧にあたる。一一月九日、完全制圧。

井上幸治著『秩父事件』によると、処罰者は四一七八人。田代や加藤など幹部七人に死刑判決が下った。

▲困民党総理の田代栄助。

祖父の名誉を回復

秩父困民党の〝総決起集会〟があった椋神社を訪ねてみた。鳥居をくぐって右側に曲がると、秩父事件関連の広場が設けてあった。中央にブロンズ像、右側に経過を描いた看板、左には石碑がある。

吉田町役場と同町教育委員会では、秩父事件のパンフレットを発行している。

「かつては村の誰しも事件には触れたがらず、隠す傾向が強かったのですが、ここ二〇年くらいの間に、自由民権運動として再認識、再評価し、学校の授業でも取り上げています」（同町教育委員会）

同教育委員会では冊子『秩父事件目撃者の口説』に、青葉伊左吉氏（昭和四一年収録当時・九〇歳）の談話を掲載。

「一一二時ごろ、鉄砲の音がした。家の二階で見ると、パッ、パッ、煙が出る。それからドン、ドン。音が後だから。戦争でもするんじゃないかと言っていたら、夕方になって男が来て、〝俺はこれから、みんなのためにいいことをするんだ。ひと（人足）が要るから、みんな出て助けるんだ〟とどなった」（抜粋）

孫の青葉佐一氏（現・七四歳＝吉田町文化財保護委員長）が打ち明ける。

「祖父から秩父事件のことを聞かされたのは戦後になってから、昭和二一年頃でした。事件後一〇〇年を経て住民にもようやく事実解明の意識と新しい視点が生まれ、祖父の名誉が回復できた思いです」

椋神社の境内では、樹齢一〇〇年を超すと思われる銀杏が、よく熟れた実をいくつも落としていた。

▲法網をくぐり、北海道へ逃げた井上伝蔵。

ベストセラー
『安愚楽鍋』『五重塔』が描く〝文明開化〟と江戸の心意気

時代が明治に入るとともに流行した〝文明開化〟の実態をとらえ、生き生きと描いた仮名垣魯文の『安愚楽鍋』が明治四年に刊行され、文明開化の気風をいさぎよしとしない面々に大いに歓迎された。その第一章にあたる「開場」では「昨晩もてたる味噌を挙。たれをきかせる朝帰り。生のかはりの粋がり連中。西洋書生漢学者流。劉訓に似た儒者あれば。肖柏めかす僧もあり。(中略)牛鍋食はねば開化不進奴と鳥なき郷の蝙蝠傘」と、皮肉をたっぷりきかせ、牛鍋屋につどう連中をつぶさに観察していった。

目次に並んだのは「西洋好の聴取」「堕落個の廓話」「生文人の会談」などで、まるで舞台の上で展開される芝居のような趣があった。また、書きとめられたものには「ヲーテコロリ(オーデコロン)といへる香水」や「カナキンではりたるかうもりがさ」、はたまた「びいる」「西洋時計」などがあって、いかにも文明開化の時代を彷彿とさせた。

また江戸の光景を蘇えらせる物語として人気を呼んだのは、幸田露伴の名作「五重塔」で、この作品が収録された『尾花集』は明治二五年に刊行された。

「八百八町百万の人みな生ける心地せず顔色さらにあらばこそ。中にも分けて驚きしは円道為右衛門、折角僅に出来上りし五重塔は揉まれ揉まれて九輪は動ぎ、頂上の宝珠は空に得読めぬ字を書き、岩をも転ばすべき風の突掛け来り、楯をも貫くべき雨の打付り来る度撓む姿、木の軋る音、復る姿、又撓む姿、軋る音、今にも傾覆らんず様子に……」といった名調子で、江戸職人の心意気を表した。

一方、明治三〇年に刊行された島崎藤村の『若菜集』は新しい時代の到来を感じさせる画期的な詩集だった。この中には「わきてながるゝ／やほじほの／そこにいざよふ／うみの琴……」(潮音)や「とほきわかれに／たえかねて／このたかどのに／のぼるかな……」(高楼)、「まだあげ初めし前髪の／林檎のもとに見えしとき／前にさしたる花櫛の／花ある君と思ひけり……」(初恋)など、後々まで親しまれることになる有名な詩句も含まれていた。

◀『安愚楽鍋』(誠之堂)

▼『若菜集』(春陽堂、25銭)

◀『尾花集』(青木嵩山堂、30銭)
日本近代文学館(3点とも)

スターと名場面
歌舞伎の〝改良〟に始まり新派が人気を集めた時代

エンターテインメントの世界にも、〝開化〟の波が押し寄せていた。明治七年、九代目を襲名した名優・市川団十郎は、それまでの歌舞伎のあり方に疑問を抱き、リアルな舞台を追求して、その芝居は〝活きた歴史劇〟といったニュアンスを持つ「活歴」と評されるほどだった。同時代の花形役者、五代目尾上菊五郎と初代市川左団次とともに団・菊・左と称され、歌舞伎の近代化に貢献した。

一方、国が開けてさかんに海外視察に赴くようになった政府高官たちは、訪問先で観劇に招待されることが多く、劇場が国際的な社交場であることを知った。彼らが帰国後、国内の演劇に目を向けたのは必然の成り行きで、明治一九年には政府肝煎りの〝演劇改良会〟を設立、翌二〇年には、外務大臣・井上馨邸に天皇を招いて天覧劇を催すなど、積極的な活動を行った。なおこの天覧劇では、上記の三名優が「勧進帳」を演じた。

そして明治二二年には、福地桜痴らが歌舞伎座を設立し、その開場公演にも三名優が出演。同じ頃には、川上音二郎らの新派が大衆の人気を集め、また西洋の近代劇を日本に移植しようとする新劇も草創期を迎えようとしており、エンターテインメントの世界は、全体的に活発な動きを見せていたのである。

▶丸橋忠弥に扮した初代市川左団次。
▲「暫(しばらく)」の九代目市川団十郎。
◀「弁天小僧」の五代目尾上菊五郎。
松竹提供(3点とも)

モノ語り
〝文明開化〟が生んだ生活用品!「福原衛生歯磨石鹼」「サッポロビール」「直流エヂソン式扇風機」

▶**家庭電化製品の原型が見える〔明治27年頃〕** 江戸から明治へかけての大発明家、「からくり儀右衛門」こと田中久重の流れをくむ白熱舎(現・東芝)は、明治20年代に電球を製造して、エネルギーの近代化に大きな役割をはたしていたが、明治27年頃には、写真のような「直流エヂソン式扇風機」を製作して、世間のど肝を抜いた。スイッチひとつで、電灯がつき、風が出るという、驚異の「電化製品」だった。
東芝科学館提供

▲**超ロングセラーのビール〔明治10年〕** 北海道の開拓使麦酒醸造所(現・サッポロビール)が、「サッポロビール」を発売。ラベルに〝独逸(ドイツ)法醸造〟と明記し、本場・ドイツ風の本格派ビールであることをうたった。写真のラベルは、翌年の明治11年から発売された2番目のバージョン。マークの五稜星は、発売当初から今にいたるまで、変わることなく用いられている。

◀**歯にやさしい歯磨きの登場〔明治21年〕** この年、資生堂は「福原衛生歯磨石鹼」を発売、これが大評判となった。当時は、焼き塩などに香料を入れた粉歯磨きしかなく、歯を傷めがちだった。ところがこの歯磨石鹼は、固形石鹼状に練り固めたもので、なめらかで歯を傷めず、歯石を溶解するうえ、口臭を除去するという高品質。粉歯磨きが1袋2～3銭だったのに対して25銭と高価だったが、ヒット商品となった。

◀**持ち運びに便利な照明器具〔明治30年頃〕** この頃誕生した照明器具で、大いに重宝がられたのが「アセチリン瓦斯(ガス)灯」である。下部のガス発生器にカーバイドを入れ、これに少しずつ水をたらしてアセチレンガスを発生させ、上部のバーナーで燃やして明るい炎にした。持ち運びが容易で、どこでも点灯できるので、夜店などでもさかんに用いられていた。
がす資料館蔵/田代真一

想像力を刺激する素朴な遊び

「組み上げ錦絵」は江戸時代からあったが、明治以降は「立て版古」「起こし絵」などとも呼ばれるようになった。ペーパーモデルとしては世界に比しても優れたもので、明治時代には歌舞伎の名場面を舞台として組み立てるものや、華族の馬車の組み上げなどもあった。1枚ものだけでなく、3枚続きや9枚続きといった凝ったものもある。写真は「本朝廿四孝」で、明治27年発売のもの。
前川久太郎蔵　乙咩雅一

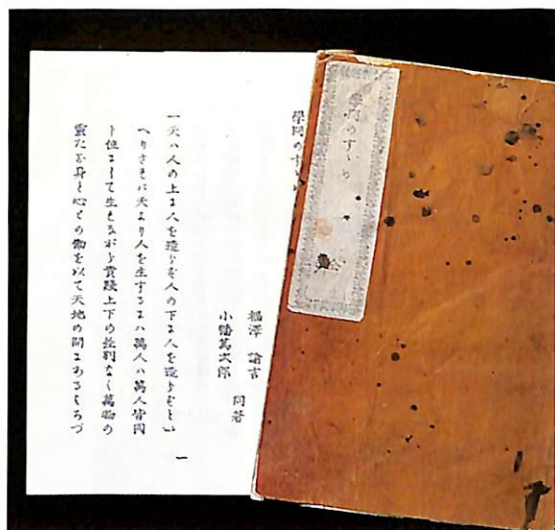
◀**華麗な組み立て遊び〔明治28年〕** 江戸時代から明治時代にかけて流行した遊びに、「組み上げ錦絵」がある。ひとつのテーマに基づいて描かれたパーツを、切ったり折ったりして組み立てて遊ぶ玩具で、テーマとしては切子(きりこ)や香箱(こうばこ)が多く、定番となっていた。
前川久太郎蔵/乙咩雅一

▲**遊具としてのカードが人気〔明治29年〕** 賭博の遊具として用いられることが多く、江戸時代にはその所持や使用が禁止されていたカルタに代わって、絵柄のまったく違う花札(はなふだ)が、明治時代にはさかんに製造・販売されるようになっていた。写真は、上方屋勝敗堂製の「花符箱」で明治29年製造のもの。桐製箱に、花札のほか、持ち点を示すための〝菓子札〟やゲームに使う〝数取り石〟など、花札遊具一式が入っていた。
紙の博物館蔵/楠田守

人物クローズアップ

福沢諭吉(三七)「天は人の上に人を造らず」と啓蒙書『学問のすゝめ』刊行!

福沢諭吉(三七)が『学問のすゝめ』初編を刊行したのは、慶応義塾が東京の芝新銭座(現・港区浜松町)から三田(現在の慶応義塾大学所在地)に移ってほぼ一年後の、明治五年二月のことだった。

この、紙数にして一〇枚ほどの小冊子は、前年の廃藩置県にともない、福沢の郷里・大分県中津に設立された市学校の青年たちに、学問の新しいあり方を説くために書かれたもので、いわば福沢の随想録とでも言うべきものだった。

▲全17編からなる「学問のすゝめ」。学問論であるとともに、社会論、教育論であり、平易な文体で書かれていた。

「天は人の上に人を造らずと云へり……」という有名な書き出しで始まる初編が刊行されるや、異常なほどの反響を呼んだ。福沢は当初、これを公にするつもりはなく、人に勧められて公表することにしたという。

初編の発売部数は二〇万部だった。以降、『学問のすゝめ』は編を重ね、明治九年一一月を最後に一七編を刊行。各編とも部数は二〇万部を下回ることはなく、福沢はみずから、全編で三四〇万部が世に流布したであろう、と推定している。

明治時代初期、為政者や知識層を悩ませ続けたのは、列強によって日本が植民地化されることへのおそれだった。『学問のすゝめ』は、こうした状態から国家が真に独立するためには、実利主義に基づく学問が重要であること、それによって「一身の独立」「一国の独立」が得られることを説いたのである。

福沢諭吉は、天保五年一二月一二日(西暦一八三五年一月一〇日)、大坂・玉江橋北詰の中津藩蔵屋敷(現在の大阪大学医学部付近)に生まれた。しかし、父・百助の急死によって一家は郷里に帰り、成長期を中津で送る。初めて福沢が、中津から他所へ出たのは安政元年(一八五四)、一九歳の時、長崎への蘭学修行のためだった。翌年、大坂の緒方洪庵の適塾に入門。同四年には塾長に推薦された。

安政五年秋、適塾の塾長だった福沢に中津藩江戸屋敷から出府命令があり、屋敷内に蘭学塾を開くことになった。慶応義塾のさきがけである。

しかし福沢は、その翌年、英語の学習を始めた。開港場の横浜を訪ねた時、オランダ語がまったく通じなかったのがその理由だった。この先見の明が、後の大きな飛躍へとつながるのである。

福沢には、幕末に三度の洋行体験があった。最初は「咸臨丸」でアメリカへ、二度目は遣欧使節の随行員として、三度目は軍艦引取委員として再度アメリカに渡った。当時としては希有なこの体験が、蘭学から英学への転向によってもたらされたものであることは明らかである。

その後、塾は少しずつ規模を拡大しながら、慶応四年四月、名称を慶応義塾と改め、初の近代私学が本格的なスタートを切る。

明治八年、『学問のすゝめ』に続いて刊行されたのが『文明論之概略』である。全六巻一〇章からなるこの書物は、『学問のすゝめ』とは異なり、読書階級に向けられたもので、終章においては、自国の独立をはかることを文明の目的とする論が展開されている。

「福沢先生が二〇世紀に残したものを特にあげるとすれば、競争と独立ということだと思います。しかし、これらはまだ十分に達成されていないのではないでしょうか。健全な社会を築くための公正な競争と、日本人のアイデンティティーを基盤にした独立。これはなお、後世我々の課題として残されているのです」

慶応義塾福澤研究センター前所長の西川俊作氏は、このように語る。

福沢が亡くなったのは、明治三四年二月三日。奇しくも二〇世紀を迎えたばかりの時だった。享年六六。

▲明治8〜9年頃の慶応義塾を描いた平面絵図。北側に医学校や演説場が配され、南側には馬場がある。 慶応義塾図書館蔵

◀三田の高台にあった旧島原藩邸に移転した慶応義塾。当時この建物は講堂と称され、中の広間で講義が行われた。

▶明治七年、乗馬服姿の福沢諭吉。当時の福沢は、ベストセラー『学問のすゝめ』の刊行を手始めに、啓蒙思想の鼓吹に全力を尽くし、価値意識の変革を説いて人心を「文明」に導こうとしていた。 慶応義塾福澤研究センター提供(三点とも)

決定的瞬間

「ここらでもうよか」と自刃! 戦闘八カ月もの「西南戦争」で鎮台兵の前に西郷隆盛完敗

◀西郷軍士官の軍装。右手に持っているのは隊旗。2月14日、西郷軍は「新政厚徳」を掲げ、雪の鹿児島を出発。

明治新政府は廃藩置県を断行後、その総仕上げとして武士階級の大〝リストラ〟に踏み切った。折しも、大久保利通を中心とした新政府に反発を強めていた不平士族は、ついに各地で蹶起する。それが頂点に達したのは、廃刀令が公布された明治九年であった。

廃刀令に反発して熊本の敬神党(神風連)が蹶起し、熊本城を一時占拠。これに呼応して、福岡秋月の乱、山口萩の乱と士族の反乱が相次いで起こった。これらの乱はまもなく鎮圧されたが、ひとたび薩摩が立てば、太政官政府はひとたまりもない、というのはこの頃の常識でもあった。そして、明治一〇年一月二九日、ついに薩摩士族は蜂起した。折からの政府の挑発に激怒した西郷隆盛(当時・四九歳)の主宰する私学校の生徒らが、草牟田村(現・鹿児島市)の陸軍火薬庫を襲い、兵器弾薬を掠奪したのである。

征韓論をめぐって大久保利通(当時・四六歳)らとの政争に破れ、参議・近衛都督の職を辞した陸軍大将・西郷隆盛は、当時、故郷に戻り悠々自適の生活を送っていたが、士族の蜂起には終始消極的な姿勢を示していたという。

しかし、大隅地方で遊猟中に私学校生徒らの蜂起を知った西郷は、もはや士族の憤懣をおさえることはできないと判断、蜂起に加わることを決意する。

西郷のもとには私学校党をはじめとする一万二〇〇〇人が参集。続いて、日向の飫肥、佐土原、高鍋、延岡および肥後などの士族らが加わり、総勢四万人に達した。二月一五日、西郷は全軍を七隊に分け、熊本に向けて雪の鹿児島から進軍を開始した。

ただし、西郷は作戦指揮の前面には出ず、「人斬り半次郎」の異名をとった桐野利秋(当時・三八歳)ら幕僚にすべてを託した。後に、西南戦争が桐野の戦いだったとされるのもこのためである。

容易に撃破できると思われた熊本鎮台だったが、西郷軍は鎮台司令長官・谷干城(当時・三九歳)の善戦に攻めあぐんだ。この間、政府の鎮台兵が続々と九州に上陸。三月に入って包囲された熊本城を救援すべく田原坂(熊本県鹿本郡植木町)方面から猛攻撃に出た。世に名高い「田原坂の戦い」である。

西郷南洲顕彰会提供

◀お傭い外国人・キヨッソーネが描いた西郷像。顔写真は1枚も残されていない。

▲17日間におよぶ激闘が続いた田原坂の戦いは、西南戦争の〝関ケ原〟だった。

さすがに薩摩士族を中心とした西郷軍は強い。各戦線で政府軍を蹴散らした。「ちぇすとー」と頭の芯を突き抜けるような、薩摩示現流独特の奇声を発して吶喊する西郷軍に、農民出身者が中心の政府軍はおそれおののいた。

しかし、倒しても倒しても、地から湧き出るように増強される近代装備の政府軍の人海作戦に、西郷軍は次第に疲弊する。四月に入り、西郷軍はついに熊本城の包囲を解き、退却を開始した。人吉から宮崎へいたる退却戦の中で、名だたる将士は相次いで戦死。六月に入ると極度の飢えと士気の低下から、投降者が続出する状況となった。

八月一五日、宮崎県の和田峠での戦いで西郷は前線に現れ、初めて陣頭指揮をとるが、時すでに遅く、政府軍に敗退。一七日、西郷は軍解散命令を出す。

そして、西郷に殉じようとする五〇〇人の部下とともに敗走を重ね、九月一日包囲する政府軍の間隙を縫って鹿児島に帰還。西郷は三〇〇人余りに減った部下を引き連れ、楠の巨樹が生い茂る標高一〇七メートルの城山にたてこもった。

城山を包囲する政府軍は、八個旅団五万人。西郷軍は、じりじりと包囲網をせばめる政府軍と最後の激闘を展開。しかし、衆寡敵せず、運命の九月二四日を迎える。この日、銃弾を受けて負傷した西郷は、付き従う別府晋介に「ここらでもうよか」と介錯を頼み、自刃。ついに城山は陥落し、八カ月間にわたる戦いに終止符を打った。

この戦いで、政府軍は五万八五五八人を動員、その戦費は四一五六万円余におよんだという。『陸軍省第三年報』によれば、政府軍の死傷者は一万六〇九五人、これに対して西郷軍の死傷者は約一万五〇〇〇人にのぼったとみられている。

▲敗走して鹿児島に帰り着いた西郷軍は、城山に本営をおき、竹矢来をめぐらし壕を掘って、最後の戦いに備えた。　上野彦馬『明治10年戦後写真帖』／ペンタックス・カメラ博物館提供(右ページ下写真も)

美の出会い

困苦のすえに新技術を習得「横浜写真」元祖・下岡蓮杖 明治初期の日本を撮る！

▲入浴する女。明治20年頃、撮影者不明。風俗としての裸体写真は、人気が高かった。

◀池上本門寺で行われた日蓮上人没後六〇〇年遠忌。明治一四年、撮影者不明。ほとんどブレがない写真。

幕末の安政六年（一八五九）に開港された横浜港は、明治に入ると首都・東京の外港として著しく発展し、海外から貿易商や観光客が続々と訪れるようになった。これらの外国人に向けて、横浜ではお土産用の写真アルバムが売り出され、飛ぶように売れていった。

このアルバムは、箱根や日光東照宮などの名所・旧蹟を写した風景写真をはじめ、菓子売りや人力車、髪結いを写した風俗写真、芸者や刺青をした男の肖像写真など数十枚をセットにしたもので、中には一冊二〇ドル、現在の貨幣価値に換算すると五〇万円もの値段がつくものもあった。装丁も豪華さを競い、蒔絵の表紙をつけるアルバムも出たほどである。外国人輸入業者は、これらのアルバムを、写真館に一万部単位で注文し、明治期を通じ数十万冊が海外に渡ったという。

「外国人に向けて横浜などで売り出された、日本のエキゾチシズムを強調した写真を、『横浜写真』と称するようになったのは近年のことです。その中に、幕末から外国人観光客に売られていたアルバム写真も含めるか、明治一桁代の後半からさかんに輸出されていたアルバムに限定するか、考え方の違いがあります」と、写真史家の金子隆一氏は解説してくれる。

「いずれにしても、印画紙の鶏卵紙に手彩色した『横浜写真』は、明治の記録として残された日本人像が読みとれる、貴重な資料です」（金子氏）

横浜写真の中には、外国人の異国趣味を満足させるように演出したスタジオ写真もあるが、何気ない日本の風景を撮影したものなど、写真師たちの工夫や努力のあとが見られるものも多数含まれており、興味を引かれる。

▲蒔絵の表紙がつけられた「横浜写真」アルバム。外国人向けに作られ、装丁も華美を競った。

明治初年の横浜では、日本写真の開祖の一人とされる下岡蓮杖が本町に開業したのをはじめ、馬車道にはシーボルトに学んだ清水東谷、長崎の写真師・上野彦馬に学んだ内田九一が、そして太田町には臼井秀三郎が写真館を開き、肖像写真を撮るかたわら、アルバム用の写真を撮っていた。イギリス人写真家のフェリックス・ベアトが横浜居留地に写真スタジオを開業したのは明治二年、以後、彼は日本各地で撮影した写真をアルバムにして販売するようになった。続いて明治一〇年代には桜田安太郎、日下部金兵衛、鈴木真一らも開業。「横浜写真」は全盛期を迎え、後に中心が東京に移ってからも、その人気は衰えなかったのである。

そもそも、日本人が初めて写真を手がけたのは、嘉永元年（一八四八）のことである。長崎の御用商人・上野俊之丞が、長崎に着いたオランダ船からダゲレオタイプの写真機材一式を買い入れ、薩摩藩主・島津斉彬のもとで試写したのが始まりではないかと推測されている。日本人が撮った現存する最も古い写真は、安政四年（一八五七）に撮影された島津斉彬像である。

▲下岡蓮杖の自写像、明治初年。湿板写真で、みずからを撮影した絶頂期の作品。

それから五年後の文久二年（一八六二）に、長崎で俊之丞の息子・上野彦馬（当時・二四歳）が、横浜で下岡蓮杖（当時・三九歳）が、日本初の職業写真家として開業。ともに、困苦のすえに写真技術を修得し、後に文明開化の花形職業となる写真家への道を後進のために開いていった偉大な創業者とされる二人である。

伊豆・下田に生まれた蓮杖（本名・桜田久之助）は、江戸に出て狩野派の絵画を学んでいたところ、一枚の銀板写真に出会い、興味を持った。写真を教えてくれる人を訪ね、外国船の着く下田や横浜をさがし歩いていた蓮杖は、アメリカ人写真家・ウンシン（ジョン・ウィルソン）に出会う。ウンシンは技術を教えることを渋ったが、帰国の際に、当時最新の湿板写真機材一式を蓮杖に譲った。残された薬品の調合も使用方法もわからないまま、蓮杖は実験を続け、生活費にもこと欠き、莫大な借金を作りながらも、ついに実験に成功する。

さっそく横浜の野毛に開業するが、当初、日本人客はほとんど来なかった。写真を撮られると寿命が縮むという迷信が、大手を振ってまかり通っていた時代である。だが、六年後の明治元年、横浜の本町に移った頃には、朝の開店前から行列ができ、夕刻の閉店まで千客万来の大繁盛となった。

こうして「横浜写真」の元祖・蓮杖は、幕末から明治初期の日本の風景や風俗を次々に撮影していった。後に〝ゲイシャ〟や〝フジヤマ〟に代表される悪趣味な日本イメージを流布させた張本人として批判されることもあったが、華美で外国人の好みにあうような類の写真は、蓮杖以降さかんになったのは確かである。

石黒敬章提供（4点とも）

20世紀博物館

市立函館博物館五稜郭分館（北海道・函館市）

旧時代のヒーロー・土方歳三に近代戦の洗礼をあびせた箱館戦争の遺品

桑原茂夫

▲五稜郭タワーから見た「五稜郭」。中央緑地の中に見える白い建物のうち、奥の方が五稜郭分館。その右手に見える空き地が、箱館奉行所跡である。

このミュージアムは、「五稜郭」跡地の五稜郭公園にある。そして外国勢に対する要塞としての「五稜郭」と、榎本武揚率いる旧幕府軍が新政府軍と戦った箱館戦争（明治元～二年）の陣地としてのそれという、二つの側面から「五稜郭」を視覚化して見せている。

要塞としての「五稜郭」の全体像を見るには、公園に隣接する五稜郭タワーからがいい。絵に描かれたとおりの星形をした要塞が、はっきり見てとれるからだ。しかし、跡地に足を踏み入れ、石垣を仰ぎながら堀を渡り、ミュージアムの前まで行くと、「五稜郭」の歴史が、にわかに現実味をおびて迫ってくる。

そこには大砲が二門、でんとかまえているのだ。箱館戦争で用いられた欧州製の兵器だが、いかにも重そうでパワフルに見える。

このミュージアムの展示が、野外におかれたこの大砲から始まるというのは象徴的だ。というのも、箱館戦争は当時の死の商人をして「武器の見本市」と言わしめたほど、兵器・武器が新・旧とりまぜて多彩であり、大砲は新しい方を代表する兵器だったからだ。

館内には、こうした大砲を積んだ軍艦の図や、大砲から発射された弾丸、撃たれて沈んだ軍艦の破片などが陳列されており、箱館戦争における大砲の意義が、具体的に示されているのである。

一方で、江戸時代の名残である刀が武器として飾られ、さらに、火縄銃から七連発のライフルまで、あまりに対照的な新旧の銃器が並べられており、また戦士の装いとして、鎧が飾ってある隣に、新政府軍のいかにも機能的な洋式軍服が陳列してある。

このような展示品の中に、新撰組の土方歳三の写真や、同じ新撰組の諜報部員とでも言うべき中島登の描いた、隊員の似顔絵絵巻を見つけると、感傷的になってしまう。チャンバラ映画のヒーロー、新撰組の面々が、砲弾や銃弾が飛びかう戦場で死に直面していたという事実は、あまりに悲劇的だ。

学芸員の保科智治さんは、この箱館戦争を、あくまでも「戦争」であると強調する。あらゆる戦争がもたらす悲惨さと同じか、あるいはそれ以上のものがこの戦争からは読みとれるという。

「武器の見本市」であったことも、その証左と言える。時あたかもアメリカ南北戦争の終結直後であり、そこで不要になった、あるいは売れ残った武器もずいぶん舞いこんできたし、この戦争を決定的に近代戦争たらしめた「軍艦」もまた、外国からもたらされたものであった。そうした現実を背景に、箱館（明治二年から「函館」と表記されるようになった）の町は突然戦火に包まれ、壊滅状態に追いこまれたのである。

急激な時代の変化とはどういうものか、いろいろな角度からリアルに見せてくれるミュージアムであった。

▲箱館戦争を描いた絵。湾内には軍艦が並び、陸地では旧幕府軍（左下）と、新政府軍（その右）とが対峙している。「五稜郭」の位置は、絵の左下方にあたる。

▲五稜郭分館の入り口におかれた大砲。これはイギリス製のブラッケリー砲で、旧幕府軍が湾内攻撃のため台場に設置したもの。箱館戦争は近代戦の側面を持っていた。

▲長い間ヨーロッパで医療活動をしていた医師・高松凌雲は、榎本武揚率いる旧幕府軍について箱館までやって来て、敵味方なく救護した。これはその外科治療用具。

●市立函館博物館五稜郭分館
北海道函館市五稜郭町四四―二
☎〇一三八―五一―二五四八
市電五稜郭公園前から徒歩五分
開館時間＝九時～一六時（一一～三月）一六時半（四～一〇月）
休館日＝月曜日、祝日、最終金曜日、年末年始
入館料＝一般一〇〇円

ともに10代で来日外国人と運命の結婚を経験！西欧と日本のはざまを生きた“明治の花嫁”

花・ベルツとクーデンホーフ光子

▲1歳の息子・トクを抱く花。ベルツは、明治22年5月23日の日記に、「父になった」とトクの誕生について記している。『花・ベルツへの旅』

明治政府は近代化を押し進めるため、先進欧米諸国から、数多くの外国人を「お傭い外国人」として招き入れた。彼らの貢献度はきわめて高かったが、それを陰で支えた日本女性がいた。花・ベルツとクーデンホーフ光子は、ともに来日外国人と結婚し、ヨーロッパに渡った点で共通している。西欧と日本のはざまで苦悩した二人の人生は、“真の国際化”を考えるうえで好個のモデルともなった。

官舎の本郷・加賀屋敷で花に一目惚れしたベルツ

「今、国際化が叫ばれ、日本と外国の距離が縮まったと言われていますが、それは形だけで、本当に心から通じ合っているとは思えません。明治以来ずっと変わってはいないのです。花・ベルツ（元治元＝一八六四～昭和一二＝一九三七）とクーデンホーフ光子（明治七＝一八七四～昭和一六＝一九四一）の生きざまを知ることで、“真の国際化”とは何かが見えてくるはずです。日本が世界の孤児にならないためにも、彼女たちの苦悩や生き方から学ぶことは大きい」

こう語るのは『花・ベルツへの旅』（講談社刊）を著し、現在はクーデンホーフ光子像を追い続けているドイツ在住の眞寿美・シュミット＝村木さんだ。

花・ベルツは、明治九年に東京医学校（後の東京大学医学部）の「お傭い外国人」教師として来日し、近代医学を日本に伝えたドイツの医学者、エルヴィン・ベルツ（一八四九～一九一三）の生涯の伴侶として、幕末から昭和にかけて日本

▶上州旅行中のベルツ（左）と同僚のスクリバ（右）。官舎では、スクリバはベルツの隣に住んでいた。

「花・ベルツへの旅」

とドイツで生き抜いた女性である。

二人の出会いは、横浜港に着いたベルツが、官舎の本郷・加賀屋敷で生活を始めてまもなくのことだった。住みこみで奉公していた母親・袖を訪ねて遊びに来る、利発で愛らしい花にベルツが一目惚れしたのだ。二人は五年後の明治一四年の九月に結婚した。花が一六歳、ベルツが三二歳の時であった。

当時、東京ではコレラが蔓延していた。花は、大学の講義が終わると率先して患者の手当てをし、疲れはてて帰宅するベルツを心から支え、伝染をおそれて誰も手をつけない白衣の洗濯もやりとげた。

二人の子どもも授かった。長男・トクは明治二二年五月、長女・ウタは明治二六年四月に生まれ、家族四人の幸せな日日が続いていた。しかし、不幸が突然訪れる。明治二九年四月、ウタが重い肺炎を患い他界してしまったのだ。

明治三三年四月、ベルツはトクの将来を考え、彼を単身でドイツの実家へ送ることにした。そして、花が息子・トクに再会するのは五年後の明治三八年七月。ベルツが大学勤務と明治天皇の侍医を辞し、夫婦でドイツに帰国した時であった。トクはこの時一六歳、五年間の空白は大きく、親子の間には溝ができ、花は体調を崩すことが多くなった。カルチャーショックや言葉の壁も重くのしかかる。

それに最愛の夫・ベルツの死が、追い打ちをかけた。大正二年八月三一日、享年六四、ドイツでともに暮らし始めて八年後のことであった。

折から、第一次世界大戦の足音が近づいてきた。トクは戦場にかり出されていったが、開戦から一年後、一歳年上のヘレーネ・ツェーマンと「戦時結婚」し、戦後は「ルートヴィヒスブルガー・ヴェルクシュテット」という建築デザイン会社を設立して自立の道を歩み出した。

花は日本への帰国を決意する。大正一一年四月、一七年ぶりに日本に着いた花は、ひとまず東京・早稲田の親戚に身を寄せ、大正一三年には平河町の借家に移り住み、夫が残した遺産を処分するなどして、つましいながらも、ベルツ未亡人として毅然とした生活を送る。そして昭和五年、先祖が眠る豊川（愛知県）の西明寺境内にベルツ供養塔を建て、七年後の昭和一二年一月七日、静かに息をひきとったのである。享年七二であった。

教育に情熱を注いだ光子 次男は「EU」の提唱者に

ベルツのように、日本の近代化政策をバックアップするために欧米諸国から招聘された「お傭い外国人」は、明治五年から一八年までで約四四〇〇人におよぶ。その職務は、教師、技術者、事務職など多岐にわたっていたが、彼らは日本にとって貢献度が高かっただけに、非常に優遇された。

ベルツと同じ東京大学で動物学や生物学を講義したアメリカのエドワード・モース（東京・大森貝塚の発見者）は、「月給の半分を貯金しても、貴族のような生活ができる」と書き残し、ベルツは、温泉地・伊香保に別荘を持っていた。「お傭い外国人」の月給は、おおよそ三〇〇円から六〇〇円。一方、日本の官僚では、太政大臣の三条実美が八〇〇円、右大臣・岩倉具視が六〇〇円、小学校の教頭が八円から一二円という時代であった。

「お傭い外国人」以外にも日本には数多くの外国人が訪れ、ラブ・ロマンスも花咲いた。明治二五年春、オーストリア・ハンガリー帝国の公使として来日したハインリッヒ・クーデンホーフ伯爵（一八五九～一九〇六）と電撃結婚した青山光子は、渡欧後、七人の子どもを育て、一度も日本に帰ることのなかった女性であった。二人のなれそめの場所は、伯爵が赴任してまもなくの東京・牛込。馬が蹄を踏みすべらし、主人を乗せたまま転倒するのを、父親がいとなむ骨董屋の店先で見た光子が、伯爵を手厚く看護したのがきっかけである。光子は一八歳、伯爵が三三歳であった。

四年の任期を終えて帰国する夫に従い、ヨーロッパへ渡り、ボヘミア古城の伯爵夫人となった光子の前には大きな壁が立ちふさがった。クーデンホーフ家は、ハプスブルク家と近縁の名家で、東洋人への偏見から、光子への嫁いびりも激しかった。

しかし光子は負けなかった。〝社交界の名花〟と称されるまで洗練された物腰を身につけ、子どもの教育にも情熱を注ぐ。明治三九年五月一四日、一四年間連れ添ったハインリッヒが四七歳でこの世を去った後も、夫の遺言に従って子どもたちを立派に育てあげた。特に、次男のリヒャルトは現在の「EU」にも通じる「汎ヨーロッパ思想」の提唱者として世界に名高い。そして、光子は太平洋戦争直前の昭和一六年八月二八日、ウィーン郊外で六七年の生涯を閉じたのである。

「お傭い外国人」とその給与

人名	国籍	職名	月給（円）	就職年
フルベッキ	オランダ	開成学校教頭	600	明治2
ジュ・ブスケ	フランス	兵部省兵式顧問	600	明治4
モリス	イギリス	工部省電信技師	150	明治4
シャンド	イギリス	大蔵省紙幣寮書記官	450	明治5
ボアソナード	フランス	司法省顧問	700	明治6
ダグラス	イギリス	海軍兵学校教師	400	明治6
ダイアー	イギリス	工部大学校教頭	660	明治6
ベルツ	ドイツ	東京大学教師	337	明治9
モース	アメリカ	東京大学教師	350	明治10
ロエスレス	ドイツ	外務省顧問	600	明治11
フェノロサ	アメリカ	東京大学教師	300	明治11
デニソン	アメリカ	外務省顧問	450	明治13

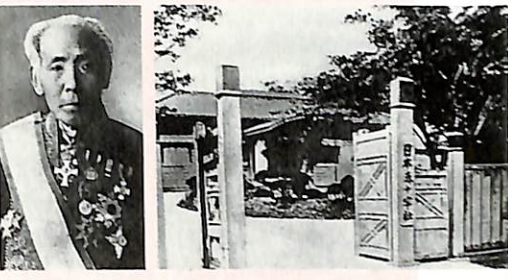
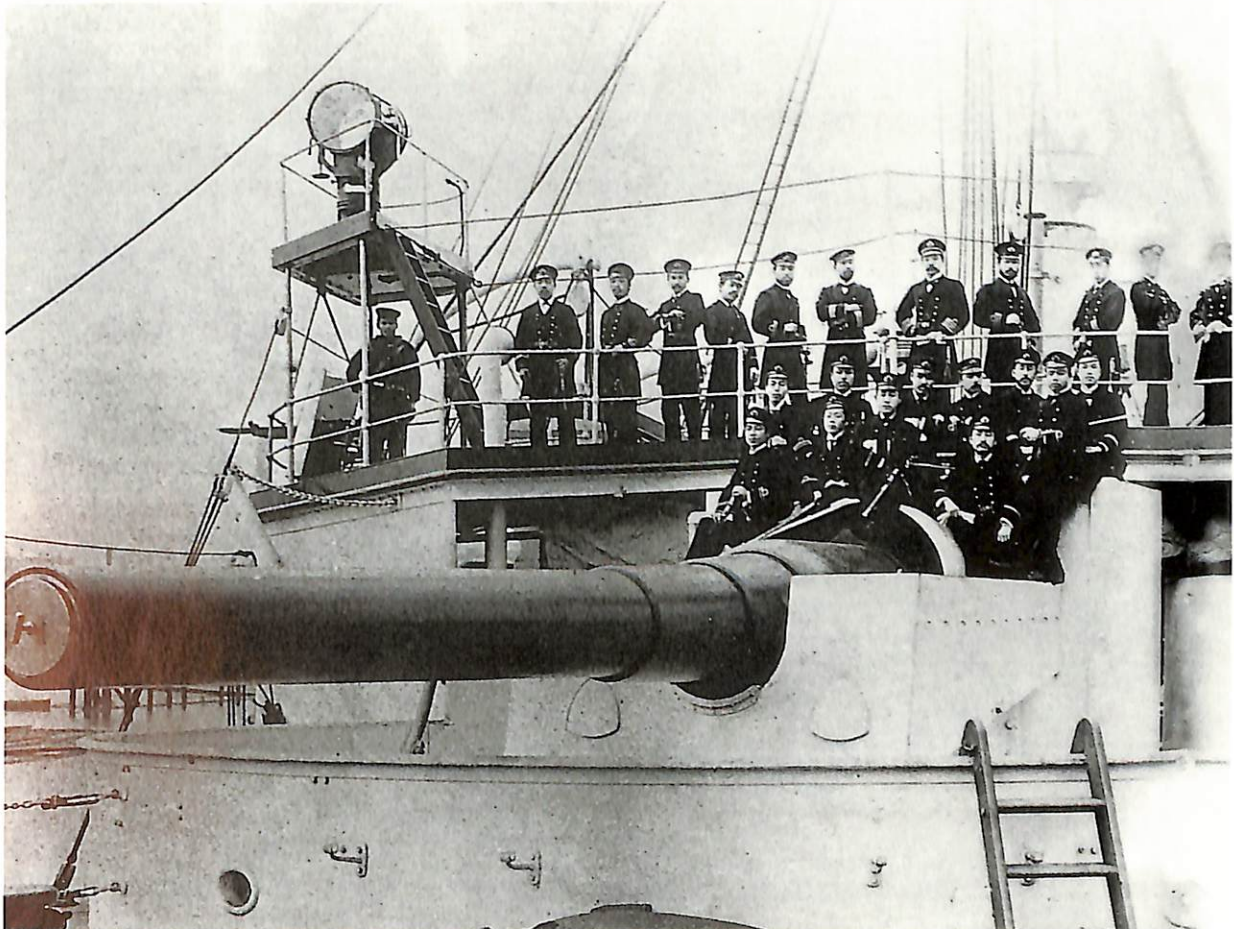
◀クーデンホーフ伯爵と青山光子の結婚写真（明治25年3月16日）。伯爵来日2週間目に挙式という、おそろしく性急な結婚だった。

南川三治郎提供

眞寿美・シュミット＝村木提供

▲教会前でカンバスに向かう光子。晩年は、ウィーン郊外で余生を送り、2度目の卒中で逝くまで日本の土を踏むことはなかった。

フォト+年表で再現する32年

▶日本赤十字社、誕生(明治20年5月20日)西南戦争で負傷者救護につとめた佐野常民(64、左)らの博愛社が、日本政府のジュネーブ条約加盟により改称。初代社長に佐野が就任した。写真右は、東京・飯田町の本社。

▼巡洋艦「浪速」、日本へ回航(明治19年3月)前月に英・アームストロング社で竣工。3709トン、26センチ砲2門を装備した最新鋭艦。日清戦争に出撃。写真は、自慢の砲と山本権兵衛副長(34、後列右から4人目)ら。

▲「自由の女神」完成(1886年10月28日)米国独立100周年記念に、仏国内の募金による像がニューヨーク湾内リバティ島で完成。高さ約93メートル。仏で作られ(写真)、分解して米に送られた。

ARCHIVE PHOTOS

▲帝大、初の競漕大会(明治20年4月16日)東大から改称後の第1回運動会に、学部対抗ボートレースを併催。写真は、このために調製した日本最初の大優勝旗と、優勝した法科チーム。

毎日新聞社

▲三菱長崎造船所オープン(明治20年6月)政府から長崎造船所を買収。前月には、初の鋼鉄製貨客船「夕顔丸」を竣工。以降、日本の造船界を主導、戦艦・豪華客船などを次々建造した。

毎日新聞社

▲陸奥宗光(43)、駐米公使に(明治21年6月15日)西南戦争での下獄を経て、19年、欧州から帰国したばかり。「陸奥外交」展開への第一歩となった。写真後列左から3人目、左端は夫人。

毎日新聞社

▲大日本帝国憲法、発布(明治22年2月11日)宮中で天皇が首相・黒田清隆に授与。全国で祝砲が轟き、祝典が繰り広げられた。しかし、国民の大多数はその内容を知らされなかった。写真は、東京・永田町の日枝神社の祝賀山車。

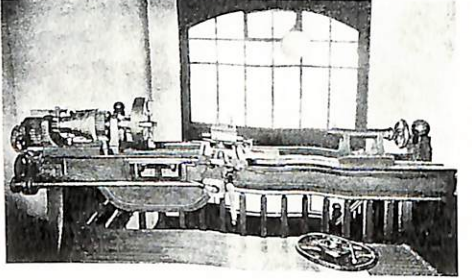
毎日新聞社

▶「コカ・コーラ」新発売(1887年)2年前にペンバートンが、コカの葉とコラの実で作った炭酸水の権利を、米国・アトランタの製薬業者が取得、薬局(写真)で「強壮剤」として発売。世界の「コーク」の始まりだった。

毎日新聞社

▲「アサヒビール」誕生(明治22年)大阪麦酒株式会社が開業、吹田工場で製造。ビールは、この頃普及しだし、サッポロ、ヱビス、キリンなどが林立した。

▼最古の国産旋盤、誕生(明治22年12月)東京で5月に創業した池貝鉄工所が、英国製をもとに9フィート旋盤を完成させた。現在、国立科学博物館に展示。

◀講道館柔道を完成(明治21年8月)東京・麹町に開いた新道場で、嘉納治五郎(27)が講義。柔術などを応用・集大成した新格闘技の完成を宣言した。

▶磐梯山、大噴火(明治21年7月15日)10世紀ぶり、突然の大爆発。熱灰と山崩れが山麓を襲った。写真は福島・長坂村で収容の遺体。死者は461人に達した。

毎日新聞社

明治19~22年

1886

- 1月1日●英、第三次ビルマ戦争に勝ち、全土領有を宣言。
- 3月2日●帝国大学令を公布。東京大学を帝国大学に改組。法・文・理・医・工の各分科大学で構成。
- 4月10日●師範学校令・小学校令・中学校令公布。第二次大戦直後までの学校制度の基礎となる。
- 6月12日●甲府の雨宮製糸場の女工百余人、労働強化・賃下げに反対してスト(16日、工場主が譲歩)。
- 7月13日●標準時の件公布。明治二二年一月一日より、東経一三五度の子午時を標準時と定める。
- 9月1日●チャリネ曲馬団が東京で興行。大テント内での象や虎の本格的曲芸が人気呼び連日満員。
- 9月4日●米国でアパッチ族の戦士・ジェロニモが捕らえられ、最後の「インディアン戦争」終わる。
- 9月20日●大阪紡績、夜間作業の照明にランプに代えてアーク灯を使用(民間初の電灯使用)。
- 10月24日●英船「ノルマントン号」が紀州沖で沈没。英人脱出、日本人二三人全員溺死が問題化。
- 10月28日●ニューヨークで「自由の女神像」が完成。
- 12月3日●東京を騒がせたピストル強盗・清水定吉捕まる(殺害五人、強盗八十余件。翌年死刑)。
- 12月6日●矢島楫子ら婦人運動団体、東京基督教婦人矯風会を設立。廃娼、一夫一婦制の実現めざす。

1887

- 1月17日●皇后が女性の洋装奨励の思召書を下付。以後、上流婦人を中心に洋装が広まる。
- 4月20日●首相官邸で大仮装舞踏会開催(鹿鳴館でしばしば開催され、欧化主義として非難される)。
- 5月5日●東京・木挽町でスパーラ(ボクシング)とラスラ(レスリング)が興行。
- 5月18日●私設鉄道条令を公布(私鉄に関する初の立法)。
- 6月20日●二葉亭四迷、『浮雲』第一編を刊行。
- 10月5日●東京美術学校・東京音楽学校が開校。
- 10月17日●仏領インドシナ連邦成立。
- 10月27日●横浜で初の鉄管式上水道の配水開始。
- 11月29日●東京電灯、日本橋に国内初の火力発電所建設。
- 12月26日●保安条例公布・施行。秘密の結社・集会禁止、危険人物の退去命令など反政府運動の弾圧策。

1888

- 1月4日●日本初の通信社・時事通信社が東京に創立。
- ●山陽鉄道会社が設立(11月兵庫—明石間開通)。
- 1月26日●帝国自転車製造所が浅草で創業。国産自転車の製造を始める。
- 2月3日●文部省、「紀元節歌」(高崎正風作詞、伊沢修二作曲)を学校唱歌と決める。
- 3月30日●真崎照郷、麺類製造機の特許取得(これにより機械製麺が始まる)。
- 4月3日●三宅雪嶺、志賀重昂ら政教社を結成、雑誌「日本人」を創刊し国粋保存主義を鼓吹。
- 4月25日●市制、町村制を公布。行政の効率化で合併促進(翌年末には七万市町村が一万五千余に)。
- 5月14日●師団司令部条例など公布、六鎮台を廃し六個師団を編成。天皇直隷の外征軍が誕生。
- 6月1日●東京・麻布飯倉に東京天文台を設置。
- 7月14日●上野動物園に岩手産ニホンオオカミが来園。
- 7月15日●福島・磐梯山が噴火。山体破裂し四六一人死亡(東京の新聞社一五社共同で義捐金募集)。
- 7月18日●神奈川県、海水浴場の男女混泳を禁止。
- 8月16日●東京市区改正条例公布。内務省主導で道路と橋、上水道建設が中心の東京初の都市計画。
- 9月8日●森鷗外、独留学から帰国(翌年から文学活動を開始し「しがらみ草紙」創刊)。
- 10月1日●東京火災保険会社が営業開始(初の火災保険会社。安田火災海上の前身)。
- 10月7日●新皇居が落成(27日、宮城と改称)。
- 11月12日●牧野富太郎『日本植物志図編』第一巻を自費出版(~明治24年、全一一巻)。
- 11月20日●「大阪毎日新聞」が発刊。
- 12月20日●特許条例を公布。発明者に特許の請求権を賦与し、一定の審査官が出願を審査し登録。

1889

- 1月22日●徴兵令を改正。戸主の徴集猶予など除外規定を全廃し、国民皆兵主義を確立。
- 2月11日●大日本帝国憲法を発布。青山観兵式場で帝国大生らが万歳三唱(万歳三唱の初め)。
- 2月12日●黒田清隆首相、地方長官会議で超然として政党の外に立つとの方針を訓示(内閣超然主義)。
- 3月31日●パリにエッフェル塔が完成。
- 4月7日●大阪に高さ四九メートル、九層の遊覧所・凌雲閣落成。
- 5月3日●幸田延、欧米留学のため横浜出発(ボストン、ウィーンで音楽を学び明治28年帰国)。
- 5月15日●大槻文彦編『言海』刊行(~明治24年、四冊)。
- 6月16日●浅井忠・山本芳翠ら、明治美術会を結成。
- 7月1日●東海道線、新橋—神戸間が全通。一日一往復、片道約二〇時間、料金は下等が三円七六銭。
- ●海軍、呉と佐世保に鎮守府開庁(7月24日、艦隊条例公布し常備艦隊を編制)。
- 9月30日●大阪の天満紡績で、三〇〇人が賃上げ要求スト(10月4日、憲兵出動し説諭、解散)。
- 10月18日●大隈外相、閣議の帰途、対等条約締結を主張する玄洋社の元社員に爆弾を投擲され負傷
- 11月21日●東京・木挽町に歌舞伎座が開場。
- 12月19日●文部省、「御真影」を高等小学校に下付と通知。

宮下欽

▲濃尾大地震起こる（明治24年10月28日）午前6時半頃、岐阜・愛知を中心にM8.0の激震が襲った。朝食時と重なり火災が多発、死者7273人、全壊・焼失14万戸に達した。写真は愛知県西春日井郡下の惨状。

▲第1回帝国議会開く（明治23年11月25日）天皇臨席のもと、衆議院・貴族院を初めて開会。山県政権と議会が予算で早くも対立、立憲政治が泣くと中江兆民を嘆かせた。写真は、開会直前に完成した仮議事堂で、翌年1月焼失した。

▼電話事業スタート（明治23年12月16日）逓信省が東京・横浜の両市内、両市間で開業。加入者は197人だったが、13年後の明治36年には全国で開通、加入者も3万人を超えた。写真は、開業時の東京交換局と女性交換手。

『開国八十年史』

▼琵琶湖疏水が完成（明治23年3月15日）京都にいたる全長10キロの水路を開き、飲料・灌漑・発電に利用する壮大な土木計画が、日本人だけで実現した。写真は、第3トンネルの通水試験。

毎日新聞社

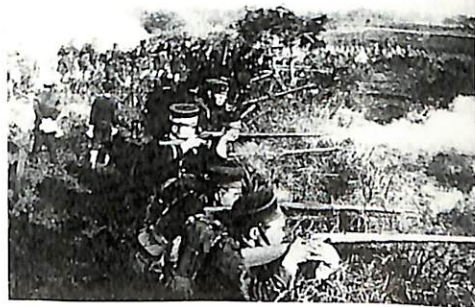
▲▶ロシア皇太子、斬られる（明治24年5月11日）大津町で、警護の巡査・津田三蔵（38、写真右）が突如抜剣。ニコライ（24、上）は軽傷だった。政府を驚愕させた津田は、日本侵略の下検分と思ったと自供。

▼リリエンタール（43）、飛行に成功（1891年）グライダーを背負う独・航空技師が、ベルリン郊外の小丘から25メートル飛んだ。この原理は、ライト兄弟に継承された。

bpk／デジタルハウス

▲清の北洋艦隊7隻、来航（明治24年7月）提督・丁汝昌に率いられ長崎港に入港。東洋一の雄姿を誇示したが、日清戦争で壊滅した。写真は、7300トンの主力艦「定遠」。

『開国八十年史』

◀福島安正（39）、シベリア単騎横断（明治25年2月11日）ドイツからの帰国に際し、ロシアの軍事探偵のため、ベルリンを馬で出発。ウラジオストク到着は16ヵ月後だった。

▲陸海軍が特別大演習実施（明治23年3月27日）愛知県を中心に約3万人の兵を動員して初めて実施。乃木少将率いる部隊の敵前上陸を機に、東西両軍が激突。仮想・日清戦争の4日間を終えた。

▲郡司成忠（32）、占守島上陸（明治26年8月）対ロシア北方警備の必要を唱え、千島列島探検を目的に62人を率いて、隅田川を出発。苦難のすえの到達だった。写真右が郡司海軍大尉、左は越年小屋。3年後にも再上陸、千島防備と開発の先駆となった。

毎日新聞社

▲独製アプト式機関車、登場（明治26年4月1日）直江津線横川－軽井沢間に敷設されたアプト式線路の歯車と噛み合い、碓氷峠の急勾配を走行。これにより、同線の上野－直江津間が全通した。

▼選挙大干渉（明治25年2月15日）政府は総選挙で自由党など民党の選挙運動を徹底弾圧。斬り合いも辞さず25人死亡、388人が負傷したが、結果は民党が勝った。写真は、馬沓と鍬で「武装」した高知自由党の壮士。

明治23～26年

1890

1月18日●富山市で三〇〇人が市役所に押しかけ米価高騰の救済を強訴（以後、各地で米騒動頻発）。

2月11日●金鵄勲章を創設。功一級から功七級。

3月6日●岩崎弥之助、政府から丸ノ内一帯（通称・三菱ケ原）の払い下げを受ける。

3月15日●京都市による琵琶湖疏水工事が竣工。

3月27日●天皇が統監する初の陸海軍特別大演習を愛知県下で実施。対清開戦を想定し三万人を動員。

4月4日●ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）が来日（9月、松江中学教師に就任）。

5月1日●欧米諸都市で初めてメーデーを実施。

5月23日●東京音楽学校奏楽堂竣工、初の演奏会ホール。

6月15日●大日本綿糸紡績連合会、経済不況のため一カ月に八昼夜休業の第一次操業短縮を開始。

7月1日●第一回衆議院議員選挙。反政府派が多数占める。

9月11日●川上音二郎一座、壮士芝居を東京で初演、「おっぺけぺー節」が評判になる。

9月29日●逓信省、女性の電話交換手を募集（七人採用）。

10月12日●英人・スペンサー、横浜公園で軽気球に乗り上昇、落下傘で降下を公開し人気（11月天覧）。

10月30日●「教育勅語」を発布。文部省、全国の学校に勅語の謄本を配布し、趣旨の徹底を訓令。

11月13日●浅草に遊覧所「凌雲閣」（別名・十二階）オープン。初めてエレベーターを設置。

11月20日●東京・丸ノ内の帝国ホテル、開業式。

11月25日●第一回帝国議会召集（29日、開会）。

12月4日●北里柴三郎、独、コッホ研究所で破傷風およびジフテリアの血清療法を開発。

12月16日●東京・横浜両市内と両市間に電話交換開始。

1891

1月1日●総人口四〇〇〇万人を突破し、四〇二五万人。

1月9日●内村鑑三、第一高等中学校始業式で教育勅語への拝礼拒否（1月末、不敬問題になり辞職）。

2月21日●中江兆民、議会の政府に対する弱腰を批判し、衆議院議員の辞表提出（27日、議会承認）。

3月8日●東京・駿河台のニコライ堂、開堂式。

3月24日●度量衡法公布。一米の三三分の一〇を一尺、一瓩の四分の一五を一貫とする。

4月10日●第一回医術開業試験を実施。

5月11日●滋賀・大津で巡査の津田三蔵が来日中の露皇太子・ニコライに斬りつけ傷害（大津事件）。

5月27日●大津で開廷の大審院、大津事件の津田三蔵への死刑求刑に、謀殺未遂罪で無期徒刑の判決。

5月31日●露、シベリア鉄道をウラジオストクで起工。

9月1日●日本鉄道、上野―青森間が全通。

10月7日●文部省、小学校の修身教科書使用を通達。

10月28日●愛知、岐阜でM八・〇の内陸では最大の地震、七二七三人死亡など被害甚大（濃尾大地震）。

11月7日●幸田露伴、日刊紙「国会」に「五重塔」連載開始。

12月18日●田中正造、足尾鉱毒事件に関する質問書を初めて衆議院に提出。

1892

1月28日●予戒令を公布。総選挙を前に壮士の政治運動を禁止する権限を地方長官・警視総監に付与。

2月3日●出口なお、京都で大本教を開く。

2月11日●陸軍少佐・福島安正、シベリア単独横断に向けベルリンを出発（明治26年、帰国）。

2月15日●第二回臨時衆議院議員選挙。選挙干渉により各地で騒乱（二五人死亡）。

3月16日●オーストリア駐日代理公使・クーデンホーフ伯と青山光子が結婚（明治29年1月、渡欧）。

6月4日●京都で蹴上発電所開業、琵琶湖疏水の付帯事業で京都に電力供給。日本初の水力発電。

6月17日●小包郵便法を公布（10月1日、小包郵便開始）。

6月21日●鉄道敷設法を公布。全国三三の予定線、建設費調達法、将来の私鉄買収など決定。

6月27日●震災予防調査会設立（濃尾大地震がきっかけ）。

11月30日●伝染病研究所設立。主任・北里柴三郎。

12月20日●大阪紡績の工場で夜業中に火災、逃げ場を失った女工ら九五人死亡。紡績史上初の大事故。

1893

1月17日●ハワイの米国支援の臨時政府、王制廃止宣言。

1月31日●「文学界」創刊。島崎藤村・北村透谷らが参加。

2月10日●軍備拡張で内廷費下付、官吏俸給の一割納付で製艦費補助の詔勅。議会が削減可決のため。

3月4日●弁護士法を公布。代言人制を廃止。

3月20日●海軍大尉・郡司成忠ら六三人、千島探検に出発。

4月1日●直江津線・横川―軽井沢間開業。アプト式線路を採用し、上野―直江津間が全通。

5月20日●海軍軍令部条例公布。天皇に直隷する海軍軍令部長をおき、軍政と分離。

5月25日●大阪・赤坂村で一〇人殺害事件（28日、警官一四七人による山狩り実施、犯人自殺）。

7月10日●東京美術学校、第一回卒業式。横山大観・関保之助ら一一人卒業。

7月15日●大阪・天満橋下流で初めて淀川川開きを開催。

9月11日●シカゴで万国宗教大会開催。初めて日本仏教が世界に紹介される。

10月31日●文官任用令・文官試験規則を公布。縁故採用など廃し試験による官吏の任用制を確立。

11月7日●初の遠洋航路、日本郵船ボンベイ航路開設。

12月25日●東京・神田の関根常五郎、墨汁の特許取得。

▲▼閔妃殺害事件起こる（明治28年10月8日）日本の影響力回復のため、朝鮮公使・三浦梧楼（48、上）らが、大院君を擁して政権強奪。親露派の王妃・閔妃（44、下）を殺害して、朝鮮官民の反発を強めた。

▲初の舞台写真（明治28年12月9日）三井と並ぶ豪商で写真師の鹿島清兵衛が、歌舞伎座で上演中の9代目市川団十郎の「暫」を撮影。輸入したマグネシュームをたいた。中央で見得を切るのが団十郎。

▼田中正造（54）、大挙請願運動へ（明治29年10月）前月の渡良瀬川大洪水で、流域の鉱毒被害は甚大。田中は翌年の大量請願をめざし、奔走した。写真は、同志と運動を進める田中（前列右から二人目）。

毎日新聞社

▲三菱1号館、落成（明治27年12月31日）東京・丸の内ビル街の先駆となる、日本初のオフィスビルが誕生した。英人・コンドルと曾禰達蔵が設計。地上3階・地下1階、耐震性を強化した煉瓦造りだった。

HULTON GETTY／オリオン・プレス

▲ロンドンにタワー・ブリッジ完成（1894年）テームズ川の最下流に、二つの塔を持つ橋が誕生。全長277メートル。船舶通過時に、蒸気圧で橋を76メートル上昇させる最新式だった。

◀野中至（29）・千代子（19）夫妻、富士山頂で観測開始（明治28年10月1日）高山と平地の気象を比較すれば、天気予報が可能になるとの信念によったが、12月に酷寒で衰弱、救出された。

明治27～29年

1894

1月4日●露・仏両国、政治・軍事同盟を締結。
3月12日●堀井新治郎、謄写版の特許を取得。
3月29日●朝鮮で東学党が反侵略・反封建掲げ蜂起。
5月16日●北村透谷が静養中に縊死。二五歳。
5月26日●綿糸輸出海関税を撤廃。綿糸輸出促進のため（輸出急増し明治29年に輸入量を超す）。
6月2日●閣議、清国の朝鮮出兵に対抗して、混成一個旅団の朝鮮派遣を決定。
6月5日●大本営を参謀本部に開設（9月、広島に進出）。
6月10日●朝鮮公使・大鳥圭介、陸戦隊を率い漢城（現ソウル）に帰任（12日先遣部隊、仁川に到着）。
●山陽鉄道、兵庫─広島間が開業。
7月9日●別子銅山住友新居浜精錬所の煙害で農民八五〇人が、同所を襲撃し警察官と衝突。
7月16日●日英通商航海条約を締結。治外法権撤廃、関税率引き上げ（11月、日米通商航海条約を締結）。
7月19日●海軍、連合艦隊を編成。司令長官・伊東祐亨。
7月23日●日本軍、朝鮮王宮占領。朝鮮軍を武装解除。
7月25日●連合艦隊、豊島沖で清軍軍艦と交戦。
7月29日●安城渡の戦いで、歩兵二一連隊のラッパ手・木口小平、ラッパを吹きつつ戦死。
8月1日●清国に宣戦布告、日清戦争始まる（9月17日、海軍、黄海海戦に勝利。11月21日、旅順口占領）。
8月25日●北里柴三郎、ペスト菌を発見。
9月1日●大本営、山県有朋を軍司令官に第一軍を編成（10月3日大山巌を軍司令官に第二軍編成）。
9月12日●御木本幸吉、半円真珠養殖法の特許出願。
10月1日●東京商品取引所が開業。砂糖・木綿・綿糸・綿花・油・金属・肥料・塩・雑穀の九品。
10月22日●山形県酒田を中心に、M七・三の地震。七二九人死亡など被害甚大（庄内地震）。
10月24日●臨時軍事費予算一億五〇〇〇万円を公布（翌年3月、一億円追加。国家予算の二・五倍）。
10月27日●志賀重昂『日本風景論』刊行。
11月1日●ニコライ二世、露皇帝を継承。最後の皇帝に。
12月9日●東京・上野で第一回戦勝祝賀会を開催。
12月31日●三菱第一号館（設計・コンドルら）、東京・丸ノ内に完成。丸の内ビル街の先駆。

1895

1月12日●京都の南禅寺が火災、山門残し大半を焼失。
1月20日●日本軍、山東半島に上陸（2月2日、威海衛占領、12日北洋艦隊司令官・丁汝昌が自殺）。
1月29日●高等女学校規程を公布。修業年限六年など。
2月1日●京都電気鉄道が営業開始。国内初の市街電車。
3月4日●愛媛県に約七〇㌔の巨大な隕石が落下。

ユニフォト・プレス

◀五輪第1回大会開く（1896年4月6日）故地・アテネで15世紀ぶり。提唱者・クーベルタンの夢が実現、ギリシャの故事にちなむマラソンも登場した。写真は100メートル走。

▼小錦、史上最年少横綱（明治29年3月）28歳5ヵ月。168センチと小兵だったが、入幕から大関二場所まで破竹の39連勝をとげ、「白象の狂うが如し」と評された。千葉県出身。

石井行昌／京都府立総合資料館提供

▲京都の初の電車（明治28年2月1日）私営・京都電気鉄道が、七条－伏見油掛間を運行。定員28人。運転手・車掌のほかに「先走り」と呼ばれる少年を乗せ、電車の通行を昼は旗、夜は提灯で知らせた。

▼日本郵船、欧州航路開設（明治29年3月15日）日本船が初めて世界に登場。横浜を隔週に出発、上海、シンガポールなどに寄港、69日間かけロンドンに到着した。写真右が横浜出港直前の第1船「土佐丸」。

日本郵船歴史資料館提供

▼三陸に大津波（明治29年6月15日）被害は青森県尻屋崎から宮城県牡鹿半島におよび、死者2万7000人、流失・破壊家屋1万戸という空前の惨事。原因は、釜石沖で生じた海底火山の爆発だった。

毎日新聞社

◀川上一座が日清戦争祝勝野外劇（明治28年12月9日）日清戦争勃発後、現地取材の音二郎（31）は戦争劇で大当たり。写真は、東京市主催・旅順占領祝賀会の折、上野公園で上演の「川上音二郎戦地見聞日記」。皇太子（後の大正天皇）も観劇。

3月15日●平安遷都一一〇〇年記念で平安神宮創建の鎮座式（10月遷都記念祭＝現・時代祭を挙行）。
3月30日●日清休戦条約に調印（4月17日、日清講和条約。遼東半島・台湾などの割譲を決める）。
4月3日●甲武鉄道、東京の飯田町─八王子間開通。
4月23日●独・仏・露三国公使、遼東半島の清国返還を勧告（5月、遼東半島還付の詔勅。三国干渉）。
5月25日●台湾で割譲反対の島民叛乱（5月29日、日本軍上陸。6月7日台北、10月21日台南を占領）。
6月17日●台湾都督府、始政式。総督・樺山資紀海軍大将。
9月22日●東京・神田で救世軍が宣戦式（救世軍発足）。
10月1日●野中至夫妻、富士山頂で気象観測を開始。
10月6日●東京・日本橋に広告取次業の博報堂が創業。
10月8日●漢城で日本人壮士ら、大院君を擁し反露クーデター。王妃・閔妃を殺害。
10月15日●東京の大丸呉服店、三日間の大売り出し開始。二〇円以上買い上げ客に食事をサービス。
10月26日●孫文ら興中会が広州で反清武装蜂起。失敗。
10月31日●清国、賠償金第一次五〇〇〇万両を支払う（明治31年までに総額約三億円、二億両を完済）。
11月6日●樺山台湾総督、各軍に帰還命令（戦死者一六四人、疫病などの病没者四六四二人）。
11月8日●独の物理学者・レントゲン、エックス線を発見。

1896

2月29日●日本銀行本店が完成。設計・辰野金吾。
3月15日●日本郵船「土佐丸」で欧州定期航路を開設（8月、北米航路、10月、豪州航路を開設）。
3月16日●陸軍、倍増の六個師団増設（四年間で編成）。
3月24日●造船奨励法、航海奨励法公布。鋼鉄製大型船建造と、大型船での貿易業に補助金を支出。
3月29日●横浜港に中国人ペスト患者が上陸（31日に死亡。明治期最初のペスト患者）。
4月6日●アテネで第一回近代五輪開催（～15日）。
4月20日●森正道、小児病の脾疳は肝油など服用で全治する脂肪欠乏症と発表（ビタミンA説の先駆）。
5月23日●一高野球部、横浜で外国人チームに二九対四で大勝（外国人との野球試合の初め）。
6月6日●明治美術会脱退の黒田清輝ら白馬会を結成。
6月15日●三陸地方に大津波襲来。二万七〇〇〇人死亡（8月31日M七・五の陸羽地震、二〇九人死亡）。
7月21日●日清通商航海条約調印。製造業営業権・最恵国条項・領事裁判権などを獲得。
9月1日●東海道線、新橋─神戸間に急行列車の運転を開始。四時間短縮され一七時間二〇分。
11月17日●神戸で、日本初輸入のキネトスコープ（のぞき眼鏡式）による活動写真を上映。

◀日本初の労組結成(明治30年12月1日)米国帰りの高野房太郎・片山潜らが設立した労働組合期成会会員のうち、1184人が鉄工組合を組織。写真は、東京の本部。翌年から鉄道、印刷の組合もでき、労働運動が始まった。

毎日新聞社

▲国産魚雷第1号が完成(明治30年3月)呉海軍造兵廠が、英国製の魚雷を改良。日清戦争では、この魚雷が強力な武器として決定的な威力を発揮、砲戦中心の海戦を変えた。海軍は、推進機関改良など性能向上に着手した。

毎日新聞社

▲巡洋艦「扶桑」沈没(明治30年10月29日)日清戦争で連合艦隊の旗艦となった「松島」と、愛媛県沖で操艦ミスにより衝突。翌年、引揚げられ(写真)、日露戦争に従軍した。

▼造船奨励法適用の第1号(明治30年)株式会社に改組した川崎造船所が、伊予汽船の貨客船「伊予丸」を進水(写真)。大型船建造を進める政府の後押しを受け、造船業界の発展はめざましかった。

川崎重工業提供

▼白馬会第3回展(明治31年10月5日)黒田清輝(30)が、長い仏留学の成果を問う「湖畔」を出品。4月には黒田が美術学校教授に就任するなど、洋画団体・白馬会が注目された。写真は展覧会場前で。

▶上野に西郷隆盛像が完成(明治31年12月18日)除幕式に弟の従道、勝海舟らが参加。西郷の人気は西南戦争後でも、「生存伝説」が語られるほど高かった。建築費は2万5000人の募金により、高村光雲が制作した。

毎日新聞社

証言・あの日この日

山川捨松(22)

津田塾大学提供

明治15年11月21日 〈その前夜はほとんど眠ることが出来ませんでした。同室の梅も同じです。私達は夜遅くまでおしゃべりをして、ほんの少しまどろんだだけで、その日の興奮が始まったのでした。一、二時間眠ったのでしょうか。「陸が見えた」という声に、私達はベッドから飛び起き大急ぎで洋服に着がえてデッキに走り出ました。その通りでした。遥かかなたに祖国の山々の線がくっきりと見えているのです〉(久野明子『鹿鳴館の貴婦人大山捨松』)

岩倉使節団とともにアメリカに渡った日本最初の女子留学生・山川捨松と津田梅子は、この日、11年ぶりに横浜港に着いた。山川は、アメリカの大学を卒業した最初のアジア人女性で、後に大山巌と結婚。外国人接待に「鹿鳴館の花」として活躍。一方、津田梅子と協力して女子英学塾(現・津田塾大学)を創立する。(山崎行太郎)

デジタルハウス

▲米国、フィリピンに軍事介入(1899年2月)前月、革命議会が共和国の成立を宣言。しかし、米西戦争に勝利して、スペインから領有権を得た米国の出兵で、独立派の夢を砕いた。

◀マルコーニ、無線通信成功(1898年)伊・発明家がドーバー海峡を越え、英仏51キロを電波で結んだ。写真は3年後、大西洋横断の無線通信を実験中のマルコーニ。1909年ノーベル賞を受賞。

▶外国人居留地を返還(明治32年7月17日)念願の不平等条約撤廃で、治外法権が解消、最後まで残った神戸・大阪居留地が自治体に渡された。写真は神戸の行事局庁舎で、相生警察署になった。

▼志賀潔(27)、赤痢菌発見(明治30年12月25日)北里柴三郎所長の伝染病研究所につとめ、猖獗をきわめていた赤痢を研究、菌を特定した。翌年、独の雑誌に発表。世界の細菌学者の注目を集めた。

神戸市水道局提供

▲別子銅山、めちゃめちゃ(明治32年8月28日)四国・中国地方を襲った豪雨により、各地で大被害。近代化された住友経営の銅山も、山崩れで壊滅的な打撃を受け、死者は584人、122戸が倒壊した。

明治30~32年

1897

1月1日●尾崎紅葉、「金色夜叉」を「読売新聞」に連載。

2月27日●ハワイ移民六六五人中、四六三人が上陸拒否される(4月にも五四九人が上陸拒否)。

3月1日●片山潜、東京でキングスレイ館開設。幼稚園、小僧夜間学校開校など初のセツルメント事業。

3月3日●足尾鉱毒被害民二〇〇〇人、農商務省に鉱業停止請願(24日、閣議、足尾鉱毒調査委設置)。

3月25日●水産講習所を設置(東京水産大の前身)。

3月29日●首里の士族一一人、徴兵忌避で中国へ逃亡はかり宮古島で逮捕(沖縄で逃亡事件続発)。

4月1日●伝染病予防法公布。国内防疫制度が整う。

6月1日●官営・八幡製鉄所が福岡に開庁。

6月10日●古社寺保存法公布。社寺の宝物など国宝指定。

6月16日●米・ハワイ、併合条約に調印(21日、日本政府、日本の権益をあやうくすると米国に抗議)。

6月22日●京都帝国大学設立(9月、理工科大開設)。

6月26日●河口慧海、チベット探検に出発。

8月29日●島崎藤村、詩集『若菜集』を刊行。

9月6日●朝鮮、露軍人を顧問に四〇〇〇人の軍隊再建。

10月1日●日清戦争の賠償金を準備金に金本位制実施。

10月16日●朝鮮の高宗、国号を「朝鮮」から「大韓帝国」と改め、中国との宗属関係を断絶。

11月14日●独軍、膠州湾占領(15日露軍、遼東半島占領。翌年、独は膠州湾、露は旅順・大連を租借)。

12月1日●鉄工組合が発会式。初の近代的労働組合。

12月25日●志賀潔、赤痢の病原体を発見と発表。

12月31日●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。

1898

1月1日●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。

1月20日●元帥府条例公布。陸軍大将・山県有朋、海軍大将・西郷従道らに元帥の称号を授与。

2月24日●日本鉄道の機関士が解雇反対で鉄道初のスト、上野—青森間が運休(27日解除、要求通る)。

4月1日●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し集会禁止命令。

4月10日●東京で奠都三〇年祭挙行。大名行列、仮装行列などの催しに上京者一〇万人含め最高の人出。

4月19日●日銀、日清戦争後の金融逼迫救済のため公債買い入れを開始(日銀初の市場操作)。

4月25日●キューバの独立めぐり米西戦争始まる(5月1日、米国艦隊、マニラ湾でスペイン艦隊撃滅)。

6月1日●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。

6月10日●地租増徴案が否決され、衆議院解散。

6月11日●清の光緒帝、近代化はかる「変法自強」宣布(9月、西太后、政権奪回し変法運動挫折)。

6月30日●第一次大隈重信内閣成立。内相・板垣退助(初の政党内閣、いわゆる隈板内閣)。

7月7日●内務省、外国人を養子または入夫とすることを許可制により認める。

7月12日●神戸港、生糸貿易開始。横浜に次ぎ二港目。

8月1日●豊田佐吉、動力織機の特許取得。

8月16日●三菱造船所、日本初の大型汽船「常陸丸」竣工。

9月1日●娘義太夫の豊竹呂昇が上京初公演。

10月15日●岡倉天心ら、日本美術院を創立。

10月18日●安部磯雄・片山潜・幸徳秋水ら、社会主義研究会結成。日本への社会主義適用を研究。

11月6日●東京・上野で初の国際自転車運動会を開催。

11月29日●徳富蘆花、「不如帰」を「国民新聞」に連載開始。

12月18日●上野公園で高村光雲作・西郷隆盛像の除幕式。

12月30日●地租条例改正。田畑地租を地価の二・五%から三・三%に引き上げ。

1899

2月1日●東京—大阪間に電話開通。一通話一円六〇銭。

2月7日●実業学校令を公布(8日、高等女学校令公布)。

2月27日●初の南米移民八一〇人がペルーに向け出発。

3月2日●アイヌ民族に対する北海道旧土人保護法公布。

3月14日●正岡子規、根岸短歌会を始める。

3月29日●中国、山東省で義和団が蜂起。

4月14日●海軍、下瀬火薬製造所を東京に設置。

4月30日●横山源之助、『日本之下層社会』刊行。

5月15日●韓国で、京仁鉄道設立(社長・渋沢栄一)。

5月18日●ハーグで日本も参加し、第一回万国平和会議。

5月25日●川上音二郎一座、サンフランシスコで欧米巡業開始。女優・貞奴が初舞台に立ち大人気に。

6月20日●東京・歌舞伎座で国産映画初上映。駒田好洋製作の人気芸者の舞踊、銀座の風景など。

7月10日●天皇・東京帝大卒業式に行幸、成績優秀な卒業生に銀時計を初めて下賜。

7月15日●軍機保護法公布。軍事秘密の探知などを処罰。

7月17日●各国との不平等を改めた各種改正条約施行。

●横浜で米国船員・ミルラー、二人を殺害(8月19日、横浜地裁が死刑判決。初の外国人裁判)。

7月20日●日本遠洋漁業会社設立。汽船操業を開始。

8月4日●日本麦酒、東京・新橋に恵比寿ビールのビアホール開店。初日から満員、客止めの人気。

8月15日●森永太一郎が洋菓子製造・販売を始める。

8月28日●台風襲来、別子銅山の山崩れで五八四人が死亡するなど中国地方中心に一四一〇人が死亡。

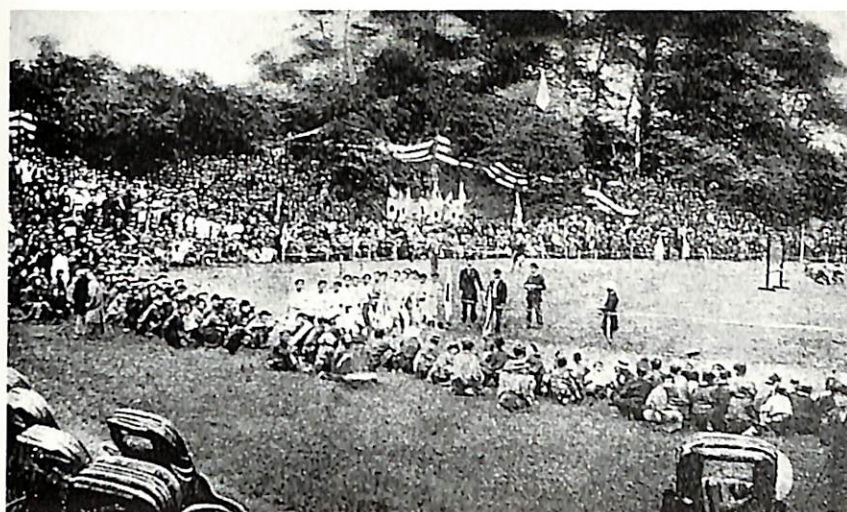
9月26日●台湾銀行開業。台湾開発と南方進出のため。

12月16日●逓信省、初の年賀郵便特別取り扱いを開始。

12月17日●東京の上水道完成、淀橋浄水場で落成式。

俄楽多市（がらくたいち）

◀明治19年、初めて本郷の運動場(現存)で開かれた、東京大学と予備門合同の運動会。

流行語
博奕場こそ本物の学校！

「新学校」。博奕（ばくち）または博奕場のこと。明治に入って、大々的に学校作りが始まった。しかし「学校で習うことは役に立たぬ。博奕場こそ真の学校」という意味で、この言葉がさかんに使われた。

「ドンブリ」。田舎者のこと。身体も洗わず、風呂にドンブリと入る意。東京の人口が再び一〇〇万人を突破した明治一五年、流行した。

「がんす」。明治二五年、五代目尾上菊五郎が歌舞伎座で「塩原多助（しおばらたすけ）一代記」を上演。多助の故郷・上州の「がんす（ございます）」という方言を使ったのが流行のもと。

「軍楽隊」。日清戦争の時の流行語で、芸者や舞妓のこと。娼妓（しょうぎ）のことを「伏兵」、割烹着（かっぽうぎ）の仲居を「赤十字社員」とも言った。

CM100年

新聞CM（時宝堂安田）

稟告
長口上ハ例年の廣告にあれば之を略し偖本月十九日は小賣店開業の四周年に當れは茲に諸彦へ御禮を申述候就てハ爾来尚一層勉強仕薄利を旨と〱不相替正札附一厘も負引ふ〱を御承知の上多少に不限御購求の程伏て奉希候謹白
金銀懐中時計
掛時計附属品
双眼鏡 数品
晴雨計
大阪伏見町四丁目廿二番地
卸賣 安田源三朗
同廿三番地
小賣店 安田源吾

▲明治18年、時宝堂は開業4周年を記念して、時計を擬人化した漫画広告を打ち出した。

社会
熊本・神風連の乱と豆腐の値段の関係

〔熊本発〕阿蘇・内牧辺（うちのまき）では、このところ豆腐の価格が高騰（こうとう）している。そのわけを聞くと、（昨年の神風連（じんぷうれん）の乱に加わった）暴民の杖刑（じょうけい）が行われ、杖（つえ）で打たれた傷につけるため大勢が買い求めるからという。一四〇〇～一五〇〇人もの杖刑となれば、さもあらん！
（「熊本新聞」明治一〇年一一月二六日）

教育
体操は行儀よくないと小学女生徒の退学続出

〔京都発〕京都近郊のある小学校では体操の科目を設け、美しいいとさんやかわいいこいさんに、一、二、三、四の号令で股を広げさせるなど、あられもないかっこうをさせるため、両親が心配して退学させるものも多いという。
（「東京日日新聞」明治一五年七月一〇日）

戦場
さすがは大阪商人移動風呂で大儲け

〔大阪発〕日清戦争で戦地に出かけて儲（もう）けた大阪商人はずいぶんいるが、その中の儲け頭（がしら）は何と言っても旅稼（かせ）ぎの銭湯屋である。これは荷車に据え風呂を備えつけ、軍隊の行く先々をまわって歩くもので、遠征先の兵隊はひと月もふた月も沐浴（もくよく）できないでいるため、競ってこの風呂に入りたがる。銭湯屋の繁盛ぶりは大変なもので、いずれも莫大な利益を手中にして帰国した。
（「報知新聞」明治二七年一二月二六日）

◀電信は、明治三年に東京―横浜間開通。写真は明治四年、東京・大森の架設工事。
毎日新聞社

▲G・ビゴー画「黒田清輝の裸体画に驚く人々」。黒田は明治28年、内国勧業博覧会に「朝妝（ちょうしょう）」を出品、話題を集めた。
日本漫画資料館提供

三面記事
「生き胆を取る」と誤解

〔千葉発〕コレラ流行の折、コレラ避病院では、治療をせず、病人の生き胆（ぎも）を取るという噂が絶えない。千葉県下ではこのほど、そうした誤解による惨劇が発生した。長狭（ながさ）郡貝渚（かいすか）村（現・鴨川市）の旅人宿・菱屋に止宿していた旅人が、先月一九日コレラにかかったため、近くの医者・沼野甚昌を招いて診察してもらったところ、「まぎれもなくコレラである、他人にうつしてはならぬ」と、同区の区長、戸長と相談のうえ、石子山堂というお堂に移して治療を行った。

しかるに土地の漁師がこれを聞きつけ、「旅人を遠い石子山堂へ連れて行き、生き胆を取るつもりだ。ひどい奴だ、打ち殺せ」と、早鐘をつき鳴らした。その合図に六〇～七〇人の徒党が手に手に竹槍、棒、鋤（すき）を持って集合。沼野氏は八方から取り巻かれ、竹槍で数ヵ所の傷を負って絶命、死体は鴨川に投げこまれた。

このことが、県庁に聞こえ、主謀者ほか六〇～七〇人が捕縛された。
（「大阪日報」明治一〇年一二月二三日）

▲明治25年10月、栃木県で行われた特別大演習に登場した、自転車の通信使。

珍商売
元帝大総長らが発起人学資無駄使い防止会社

地方から東京へ遊学するもので、次第に華美の風に染まり、放蕩（ほうとう）に流れて学業を中途でやめるものが少なくない。警察の調べでは昨年一年で、情死、詐欺、または娼妓に溺れて学業をやめたものが百七十余人におよぶ。

これは学生が学資を自由にできる点に原因があるとして、このたび渡辺洪基（こうき）（元帝大総長）、内藤耻叟（ちそう）（元帝大教授）らの名士が発起人となって、東京学資保管株式会社が開業した。同社は遊学生の学資を父兄より預り、月謝や下宿料、書籍代など、学業上必要な金は会社で支払ってやり、学生の無駄遣いを防止するという。
（「報知新聞」明治三〇年七月一一日）

風俗
契約書で誓い合った女義太夫と女髪結い

〔京都発〕京都・祇園（ぎおん）新地の女義（ぎ）太夫（だゆう）・小原染松（二〇）は、女髪結いの安井タメ（二〇）にひかれ、ある夜、割烹店に誘ってその思いを伝えたところ、タメもまた染松を憎からず思っていたことがわかった。以来、二人は切っても切れぬ仲となり、染松からタメへ次のごとき契約書を出して、終生変わらぬ愛を誓い合った。

「一、今度、夫婦契約をしましたことはまぎれもなき事実。この上はどのようなことが生じようと、よそへ縁付くことは致しませぬ。

一、もし、他の男とでも女とでも夫婦契約をしましたれば、違約金として一〇〇円差し上げます」
（「東京朝日新聞」明治三二年一一月一三日）

毎日新聞社

▲貿易商のT・グラバーは、明治18年、長崎から東京に移住。前列右がグラバー、後列中央は長女・ハナ。

▶明治五年、居留地の中で日本人が開業した西洋床屋。
毎日新聞社

この年の初もの
新商売の「靴磨き」が明治二三年、上野に登場

●**犬の生命保険会社**　明治二七年、京都保犬会社が誕生。犬の病死、撲殺（ぼくさつ）に行方不明を補償。

●**酒の一合瓶**　明治二八年、「桜正宗」がそのままお燗（かん）できるようにと売り出したもので、一合瓶（一合二勺（しゃく）入り）六銭五厘。

●**石油発動自転車（バイク）**　明治二九年、狩猟家の十文字信介がアメリカから輸入。一台五〇〇円、「汽車より倍早い」がうたい文句。

●**ブラウン管**　明治三〇年、ドイツのブラウンが発明。

はやり歌

トコトンヤレ節　伝 品川弥二郎

一天万乗（いってんばんじょう）のみかどに
手向いするやつを
トコトンヤレトンヤレナ
ねらいはずさず
どんどんうちだす薩長土（さっちょうど）
トコトンヤレトンヤレナ

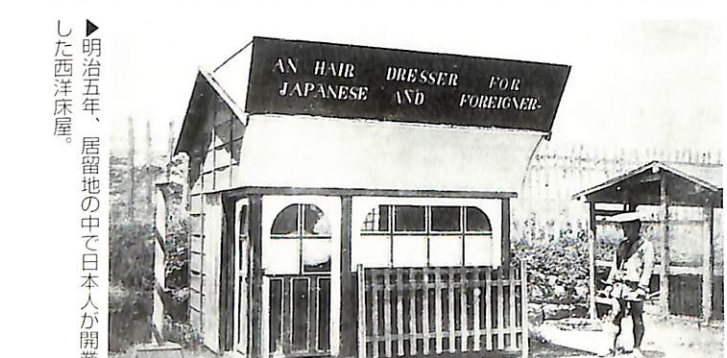
宮さん宮さんお馬の前に
ひらひらするのはなんじゃいな
トコトンヤレトンヤレナ
あれは朝敵征伐せよとの
錦の御旗（みはた）じゃ知らないか
トコトンヤレトンヤレナ

ふしみ鳥羽淀はし本
くずはのたたかいは
トコトンヤレトンヤレナ
薩土長しのおおたる
手ぎわじゃないかいな
トコトンヤレトンヤレナ

▶菊花紋が縫い取られた馬標。「トコトンヤレ節」は、薩長土を主力とする二二藩の兵士が錦の御旗をひるがえして江戸に進軍した際歌われた。流行歌第一号。

お江戸日本橋

お江戸日本橋七ツ立ち　初上（のぼ）り
行列揃えてアレワイサノサ
コチャ高輪（たかなわ）夜明けの　提灯（ちょうちん）消す
コチャエ　コチャエ
恋の品川女郎衆に　袖引かれ
乗りかけ御馬の鈴ガ森
コチャ大森細工の　松茸を
コチャエ　コチャエ
六郷渡りて川崎の　万年屋
鶴と亀とのよね饅頭
コチャ神奈川急いで　程ガ谷へ
コチャエ　コチャエ
痴話と口説（くどき）を信濃坂　戸塚まえ
藤沢寺の門前で
コチャ止めし車を綱で曳く
コチャエ　コチャエ

▲明治初年の日本橋。「お江戸日本橋」は、明治に入って復活した江戸の俗謡。東海道五十三次の宿場名が、読みこまれている。

明治一一年「大久保利通暗殺」事件!

不平士族、右翼壮士が斬奸状を懐に要人を襲う
横井小楠、大村益次郎、広沢真臣……血塗られた明治〝暗殺の系譜〟

幕末から明治初年代にかけての日本は、混乱のきわみにあった。幕藩体制から天皇親政へ、攘夷から開国へ、江戸から東京へと、すべてが大きく、しかも急速に転換したからである。こうした変化は守旧派と開明派の対立を生み、新政府に対する不信感を醸成する。そうした混乱の中に、「暗殺」という名のあだ花が咲いたのであった。

▶重傷を負った大隈重信(中央)。大隈が進めていた条約改正の内容が「日本」に訳載され、右翼が激高。爆弾テロによって、大隈の改正案は、その右脚とともに吹き飛んだ。

早稲田大学提供

明治新政府の高官に容赦ない「斬奸の剣」

明治一一年五月一四日午前八時、参議兼内務卿の大久保利通(当時・四七歳)を乗せた二頭立ての馬車は、霞ケ関を抜けて紀尾井町にさしかかる。この日は朝から、今にも雨が降り出しそうな空模様だった。

突然、手に花を持った兵児帯姿の男二人が、馬車の前方によろけ出た。馬丁の小高芳吉は、とっさに馬車から飛び降り、馬車の前に駆けだす。

「おい、おいっ」

注意をうながしたとたん、いきなり刀による一撃をあびた。刃で帽子を切り裂かれた芳吉は、助けを求めて近くの北白川宮邸めがけて全力で走る。だが、襲撃者は二人だけではなかった。「左の方に板もて囲ひたる街廁(公衆便所)の蔭」(「東京日日新聞」明治一一年五月一五日)から、肌脱ぎになって白刃をかざした、四人の男が現れたのである。六人は車中の大久保に殺到する――。

「一人の凶徒が頭を目がけ支へられし手と共に眉間より目際まで切り付け、車より引出して乱刀に切り倒して、短刀を採り直し留めを刺さんと頸の横より鍔際まで貫きしまま抜きもせず……」(同前)

大久保利通を暗殺した刺客たちは、宮内省に出頭し、堂々と「拙者どもは只今、紀尾井町において大久保参議を殺害に及びたり」と口上を述べた。名乗り出たのは、首謀者の島田一良(石川県士族)を筆頭に、長連豪(同)、杉村文一(同)、杉本乙菊(同)、脇田巧一(石川県平民)、浅井寿篤(島根県士族)であった。

西郷隆盛に心酔する島田は、維新に乗り遅れた加賀藩の名誉を回復するために、「朝鮮一番乗り」を旗印とした忠告社を主宰していた。ところが、西郷らの征韓論が破れ、島田らの願いは水泡に帰してしまったのである。かくなるうえは、大久保を暗殺するしかない。島田は決行の同志を募るとともに、大久保に対する次のような「斬姦状」を準備した。

「西郷、桐野(利秋)等世に有つては、奸吏輩大いに畏憚する所あり、まだ其私曲を極むるを得ず。今や彼の徒、已に逝くを以って奸吏輩復た顧慮する所無し……因つて当時の奸魁の斬るべき者を数ふ。曰く、木戸孝允、大久保利通、岩倉具視、是れ其の最も巨魁たる者……」

七月二七日、島田らは司法省臨時裁判所で除族のうえ斬罪を宣告され、その日のうちに東京・市ケ谷監獄で処刑された。

▶大久保の暗殺者。左から杉村文一、脇田巧一、杉本乙菊。

▲大久保利通には西郷同様蓄財の念がなく、遭難後遺産を調査したところ、現金はわずか140円、8000円もの借金があることが判明した。

不平士族暴発から右翼壮士のテロへ

明治初期の日本の歴史は、「暗殺」という名のテロで血塗られていた。「御一新」による価値基準の転倒に対応できなかった不平分子が、さまざまな形で暴発したものだが、「斬奸の剣を振るう」という一人よがりの大義名分は、およそ理解しがたいものであった。

慶応四年(一八六八)三月二三日、参内途上のパークス英国公使が攘夷派の浪人二人に襲われた。パークスに怪我はなかったが、英兵八人に重軽傷を負わせ、新政府は対外的な対応に苦慮している。

また、「今度夷賊に同心して天主教を海内に蔓延せしめんとし……」との斬奸状を懐に、奈良・十津川郷士らが横井小楠参与(当時・五九歳)を襲殺したのは、明治二年一月一五日のことだった。開明的な横井を逆賊であると断じての暗殺である。さらに同年の一〇月八日、兵部大輔の大村益次郎(当時・四五歳)を刺客が襲った。大村と同じ長州藩の過激攘夷派によるテロである。大村は深手を負いながらも、風呂桶の中に身をひそめて難を逃れたが、敗血症のため一二月七日に死亡した。暗殺の動機は、大村の進めていた「徴兵令の実施」に固陋な武士たちが危機感を抱いたためであった。

この後、明治四年二月二七日には維新の功臣である広沢真臣参議(当時・三七歳)が、就寝中に斬殺されるという事件が起こり、政府は犯人逮捕を厳命したが、初の迷宮入りとなっている。また、明治七年一月一四日には、征韓論に激しく反対した岩倉具視右大臣(当時・四八歳)の暗殺未遂事件も起こった。そして、既述の大久保利通暗殺へと、明治の〝暗殺の系譜〟は続くのである。

明治一〇年九月、西南戦争が終わると、武力によって政府に反抗する勢力は姿を消し、代わりに「自由民権」をスローガンとする新たな反政府運動が開始された。明治一四年には「国会開設の詔勅」が下り、これを機に、板垣退助の自由党、大隈重信の立憲改進党、政府主導の立憲帝

▶西郷に心酔していた首謀者・島田一良。

▲「玄洋社」元社員、来島恒喜。

外から見たNIPPON

“維新の目撃者”サトウが執筆した日本旅行ガイド

——佐伯 修

イギリスの外交官、アーネスト・メイスン・サトウ（一八四三～一九二九）は『一外交官の見た明治維新』などによって、幕末・維新の目撃者として名高い。サトウが初来日したのは、文久二年（一八六二）のことであり、駐日公使としての任務を終えて、最終的に日本を去るのは、明治三三年、つまり一九〇〇年のことであった。その間、明治二年から三年にかけてと、同一六年から二八年にかけてのブランクはあるものの、彼は、日本の近代のうちで一九世紀の期間を、ほぼ見とどけたわけである。

そんなサトウは、日本での任期中、精力的に各地を旅行し、明治一四年、ホーズとの共篇著で、欧米人向け旅行ガイドブック『中央部・北部日本旅行案内』を出版、三年後に改訂第二版を出し、その内容の充実ぶりが好評を博した。こうした本が作られた背景には、明治七年に外国人の国内旅行への規制が緩和されたことや、欧米の世界旅行ブームが日本へもおよんできたことがあげられる。サトウらのこのガイドブックは、後に、チェンバレンやメイスンによる相次ぐ改訂を経て、一九二〇年代まで愛用されたという。

▶佐藤愛之助、または薩道の日本名を持つ。

さて、このガイドブックの改訂第二版には、外国人旅行者に携行が義務づけられていた「内国旅券」の申請法や、旅先では一円紙幣が最も便利なこと、日本の草鞋と綿脚絆があると行動しやすいこと、食料は牛肉と鶏は入手困難なのでコンビーフの缶詰などを持参するといいが、ビールやワインは大きな町なら入手可能なことなどがこと細かにアドバイスされている。さらに、動植物学や、美術に関する解説は、学術書並みの詳しさで、たんなる旅行ガイドブックというより「博物誌」を感じさせる。

そんな改訂第二版から「旅宿」について。

「『旅籠』と呼ばれる日本の旅宿は、夕食、宿泊、朝食を含む一本化された料金となっている。料金は地域によって異なるが一人につき最低二十銭から三十五銭の間である。提供された食事に加えて食物や酒を注文した場合は別途にその分を支払わなければならない。用意された薪炭、灯火、給仕、風呂、お茶などの与えられたサービスを利用する限りはそれらの料金を支払う必要はない。しかし部屋に案内されてから間もなく従者を通じて『茶代』として女中に心付を提供するのが普通である」（庄田元男訳『明治日本旅行案内上巻カルチャー編』より）

また、安い旅館は悪臭がひどいので、石炭酸を匂い消しとして使うといいと言う。

政党が相次いで結成された。そして板垣、大隈両総理は、勤王主義者、右翼によるテロの洗礼を受けることになる——。

まず、明治一五年四月六日に板垣（当時・四四歳）が襲われた。短刀で刺された板垣は、「板垣死すとも自由は死せず」の名文句を吐いたと伝えられるが、幸い傷は浅く暗殺は未遂で終わった。刺客・相原尚褧は、政府の自由党攻撃に影響を受けた愛知県の士族だった。

そして、大日本帝国憲法発布当日の明治二二年二月一一日には、森有礼文部大臣（当時・四一歳）が暗殺者の手にかかった。暴漢は山口県士族の西野文太郎（当時・二一歳）で、参内のために大礼服姿で出かけようとしていた森の腹を出刃包丁でえぐったのである。欧化主義者の森が、伊勢神宮参拝時にステッキで御簾を揚げたという「不敬」の噂に憤慨した、右翼壮士の暴挙である。

テロはさらに続く。森文相暗殺からわずか八ヵ月後の一〇月一八日、今度は大隈重信外務大臣（当時・五一歳）が遭難した。右翼結社「玄洋社」元社員の来島恒喜（当時・二九歳）が、大隈の馬車に爆弾を投げつけたのである。大隈の条約改正案を“国辱”と考えての凶行であった。来島は爆弾を投げた直後に短刀で喉を突き、その場で絶命した。一方、重傷を負った大隈は命はとりとめたものの、右脚を失うことになってしまった。

世界の列強に肩を並べようと無理を承知でひた走る日本の「ひずみ」は、この後も要人暗殺という形で噴出し続ける。

▶英国公使・パークス（写真）が攘夷派に襲われた際、暴漢を退けた後藤象二郎には、英国からサーベル一振が贈られた。

▶外交官、教育家として活躍した森有礼は、明治八年二月六日、福沢諭吉を証人に契約結婚して、そのハイカラぶりが話題を呼んだ。

毎日新聞社

◀長州藩士・大村益次郎は、上野彰義隊・東北征討で事実上の総司令官をつとめた経験から、「国民皆兵」を企図し、テロリストに襲われた。

毎日新聞社

◀民部官副知事、民部大輔を歴任した広沢真臣は、倒幕運動後、維新政府に仕え、民政・財政面で辣腕を振るった。

福井市立郷土歴史博物館提供

往きて還らぬ

▲明治元年4月25日　近藤勇(33)
幕末の新撰組隊長。池田屋事件などで活躍。慶応4年、鳥羽・伏見の戦いに敗れ、下総・流山で官軍に投降、斬首。

▲明治7年4月13日　江藤新平(40)
政治家。幕末、尊攘運動を展開。維新後は文部大輔、司法卿などをつとめるが、「佐賀の乱」の首領として刑死。

▲明治10年5月26日　木戸孝允(43)
政治家で、通称・桂小五郎。幕末の尊攘派リーダー。維新後、「五箇条の誓文」を起草し、廃藩置県を推進した。

▲明治10年9月2日　和宮(31)
仁孝天皇の第8皇女。文久2年、公武合体のため将軍徳川家茂に降嫁。家茂死後は剃髪、静寛院宮と称した。

▲明治16年7月20日　岩倉具視(57)
公卿、政治家。討幕運動の陰の指導者。明治4年、右大臣。特命全権大使として渡米、明治国家の礎を築く。

▲明治18年2月7日　岩崎弥太郎(50)
実業家。三菱財閥の創設者。明治7年、征台の役で軍事輸送に協力、以後海運業を独占、経営の多角化を進めた。

▲明治21年11月5日　狩野芳崖(60)
日本画家。幕末は国事に奔走、明治17年、第2回内国絵画共進会で「桜下勇駒図」が褒状。日本画の近代化に貢献。

▲明治24年2月18日　三条実美(54)
政治家。幕末、尊攘派公卿の中心人物となる。維新後、太政大臣、首相をつとめ、引退後は華族社会のまとめ役に。

▲明治26年1月22日　河竹黙阿弥(76)
幕末・明治期の代表的な歌舞伎作者。安政元年「都鳥廓白浪」で認められる。ほかに活歴劇「二張弓千種重籐」など。

▲明治30年1月31日　西周(67)
啓蒙思想家で、日本初の西洋哲学者。東京師範学校校長、貴族院議員などを歴任。『百一新論』『致知啓蒙』を刊行。

▲明治27年5月16日　北村透谷(25)
詩人、評論家。浪漫主義文学の代表者。明治22年、『楚囚之詩』刊。26年、島崎藤村らと「文学界」創刊。自殺。

▲明治31年11月12日　中浜万次郎(71)
高知出身で、出漁中に遭難し鳥島漂着。半年後米国船に救助され渡米、嘉永4年、24歳で帰国。開成学校英語教授。

▲明治32年1月19日　勝海舟(75)
幕臣、政治家。万延元年、「咸臨丸」を指揮し渡米。慶応4年、西郷隆盛と会見、江戸城無血開城を成功に導いた。

週刊 日録20世紀 全100巻総目録

一九〇〇年代

一九〇一（明治三四年） 田中正造、足尾鉱毒事件で天皇に直訴！●与謝野晶子、『みだれ髪』刊行！●明治の〝タバコ大戦争〟●第一回ノーベル賞！

一九〇二（明治三五年） 八甲田山「死の彷徨」！●大谷光瑞、中央アジア探検！●正岡子規『仰臥漫録』の日々●国運をかけて「日英同盟」締結！

一九〇三（明治三六年） ライト兄弟、世紀の一二秒間！●藤村操の〝明治の青春〟●グルメ小説『食道楽』のレシピ七〇〇●第五回大阪「内国勧業博」

一九〇四（明治三七年） 日露開戦！ 旅順攻略戦一三六日●日本軍〝脚気大論争〟●日本初の百貨店「三越」誕生！●サイ・ヤング、初の完全試合！

一九〇五（明治三八年） 日本海海戦で連合艦隊大勝利！●「日比谷焼き打ち事件」！●夏目漱石『吾輩は猫である』発表●戦艦「ポチョムキン」の叛乱

一九〇六（明治三九年） 国策会社「満鉄」が育てた〝頭脳集団〟●「松山収容所」抑留記●「成金」第一号・鈴久●「ドレフュス事件」、無罪確定！

一九〇七（明治四〇年） オーレル・スタイン、敦煌を探検！●「華族令」改正●明治期最大「足尾暴動」！●「ハーグ密使事件」の暗転！

一九〇八（明治四一年） 清朝最後の独裁者・西太后死す！●第一回ブラジル移民七九一人●「味の素」製造開始●「ツングースカ大爆発」の謎！

一九〇九（明治四二年） 安重根、伊藤博文を暗殺！●生糸〝世界一〟と「女工哀史」●渋沢栄一「引退宣言」の衝撃！●「北極点征服」大論争

一九一〇（明治四三年） 「韓国併合条約」調印！●でっちあげ！ 幸徳秋水と「大逆事件」●〝千里眼〟実験のカラクリ●「ハレー彗星大接近」パニック

一九一〇年代

一九一一（明治四四年） 平塚らいてうと「青鞜」創刊！●「特高警察」創設！●「カフェー・プランタン」オープン●世紀の「モナ・リザ」大盗難事件

一九一二（大正元年） 明治天皇崩御と乃木大将の殉死！●白瀬隊「南極探検」●「新世界」と「吉本興行」誕生！●「タイタニック号」の悲劇！

一九一三（大正二年） 〝ノーベル賞候補〟野口英世の栄光と錯誤●「宝塚少女歌劇」発足●「大正政変」起こる！●「T型フォード」大量生産へ

一九一四（大正三年） 〝東洋一〟の東京駅開業！●「東京大正博覧会」大成功！●〝新しい女〟の「身の上相談」事情●第一次世界大戦勃発！

一九一五（大正四年） ●「アラビアのロレンス」の実像●「ゴンドラの唄」大ヒット！●「二一ヵ条要求」の火事場泥棒！●「ルシタニア号」爆沈！

一九一六（大正五年） 新兵器「タンク」出現！●葉山「日蔭茶屋事件」の顛末●労働者保護「工場法」の実態●怪僧・ラスプーチンの死と〝予言〟

一九一七（大正六年） 「目玉の松ちゃん」人気絶頂！●日本海軍、地中海遠征●「H21号」マタハリ、銃殺！●レーニン、「封印列車」で帰国！

一九一八（大正七年） 日本軍「シベリア出兵」！●民衆蜂起「米騒動」勃発！●武者小路実篤と「新しき村」●「スペイン風邪」で死者二五〇〇万人！

一九一九（大正八年） 「三・一」「五・四」運動〝抗日〟の叫び！●独軍捕虜の日本生活●「浅草オペラ」熱狂記！●ベルサイユ講和条約成立！

一九二〇（大正九年） 「宮中某重大事件」の暗闘！●惨劇「尼港事件」の真実●「普選運動」最高潮！●大リーグの汚点「ブラックソックス事件」

一九二〇年代

一九二一（大正一〇年） 皇太子、二〇歳の「欧州巡遊」●安田善次郎と原敬首相暗殺！●柳原白蓮の「不倫」劇●チャップリンの「キッド」大当たり

一九二二（大正一一年） ツタンカーメンの墓、〝世紀の発見〟！●ワシントン軍縮会議と軍人〝冬の時代〟●児童雑誌ブーム●シベリア「極東共和国」

一九二三（大正一二年） 関東大震災！●発掘！ 岡田紅陽が撮った「帝都壊滅」●山野千枝子「丸の内美容院」のノウハウ●アル・カポネ売り出す！

一九二四（大正一三年） 皇太子裕仁親王、ご成婚！●宮澤賢治『春と修羅』でデビュー！●「排日移民法」が成立！●「国父」孫文、最晩年の輝き！

一九二五（大正一四年） 〝娯楽の王様〟ラジオ放送始まる！●「治安維持法」制定●「東京六大学野球リーグ」戦スタート●「ライカ」誕生！

一九二六（昭和元年） 大正天皇崩御と〝元号誤報〟騒動●「同潤会アパート」のハイカラ生活●「福岡連隊事件」●R・ヴァレンチノ急死！

一九二七（昭和二年） 芥川龍之介、自殺！●蔵相のひとことで〝失言恐慌〟襲来！●「北京原人」出土●リンドバーグ、大西洋横断無着陸飛行！

一九二八（昭和三年） アムステルダム五輪で日本初の金！●「張作霖爆殺事件」の真相●昭和の「即位大礼」挙行！●「ミッキーマウス」デビュー！

一九二九（昭和四年） 「暗黒の木曜日」と世界大恐慌！●「東京行進曲」大ヒット！●昭和四年夏〝疑獄の季節〟●〝昭和の軍閥〟「一夕会」

一九三〇（昭和五年） 浜口首相狙撃事件！●台湾「霧社事件」の背景●夢の超特急「つばめ」発車！●〝非暴力〟ガンジー、「塩の行進」開始！

一九三〇年代

一九三一（昭和六年） 「満州事変」勃発！●「カジノ・フォーリー」と軽演劇の輝き●「のらくろ」と「黄金バット」●エンパイア・ステート・ビル完成

一九三二（昭和七年） 関東軍、「満州国」建国！●〝大森銀行ギャング事件〟と「スパイM」●「五・一五事件」の全貌！●「ターザン映画」超ヒット！

一九三三（昭和八年） 皇太子明仁親王ご誕生！●「三陸大津波」の恐怖●特高警察、作家・小林多喜二を虐殺！●日本、国際連盟脱退！

一九三四（昭和九年） 「室戸台風」襲来！●初のプロ野球「大日本東京野球倶楽部」●「春峯庵」贋作事件●中国紅軍「大長征」と〝毛沢東の闘い〟

一九三五（昭和一〇年） 大本教大弾圧の真相！●忠犬ハチ公の死と「伝説」●海軍震撼！「第四艦隊事件」●ベニー・グッドマンと〝スウィング時代〟

一九三六（昭和一一年） 「二・二六事件」勃発！●前畑と孫基禎、ベルリン五輪の「光と影」●「西安事件」と「抗日」●英国王、〝王冠を賭けた恋〟

一九三七（昭和一二年） 超弩級戦艦「大和」着工！●「盧溝橋事件」勃発！●日本軍の暴虐！「南京大虐殺」への証言●A・イアハート遭難の真相

一九三八（昭和一三年） 幻の東京オリンピック！●女優・岡田嘉子、「赤い恋」の悲劇●「代用品時代」がやって来た！●慰問団「笑わし隊」前線へ

一九三九（昭和一四年） 双葉山、七〇連勝ならず！●関東軍壊滅！「ノモンハン事件」の悲惨と教訓●名機「零戦」誕生！●第二次世界大戦勃発！

一九四〇（昭和一五年） 「日独伊三国同盟」締結！●「紀元二千六百年式典」開催！●パーマから鶏卵まで「贅沢は敵だ！」●Uボート〝狼群〟作戦！

一九四〇年代

一九四一（昭和一六年） 日本軍、真珠湾奇襲！●スパイ「ゾルゲ事件」の深い闇●女優「李香蘭」過熱人気の秘密●独軍、ソ連に電撃作戦開始！

一九四二（昭和一七年） ミッドウェーの大惨敗！●朝鮮人・中国人「強制連行」●特撮映画「ハワイ・マレー沖海戦」●「ヴァンゼー会議」とユダヤ人

一九四三（昭和一八年） 「学徒出陣」の悲劇●古川緑波ら、戦時下の〝グルメ〟●上野動物園から猛獣が消えた日●潜水艦「伊8号」の決死行

一九四四（昭和一九年） 「神風」「回天」特攻隊●原爆、レーダー、ペニシリン――日本の技術開発●「学童疎開」の〝悲惨〟体験●パリ解放！

一九四五（昭和二〇年） マッカーサーの二〇〇〇日●広島・長崎に原爆！●「八月一五日の天皇と国民」●ポツダム宣言と米ソ冷戦の始まり

一九四六（昭和二一年） 「東京裁判」開廷！●M八・一の「南海道大地震」●焼け跡に続々〝闇市〟誕生●世界初のコンピュータ「ENIAC」完成

一九四七（昭和二二年） 〝フジヤマのトビウオ〟発進！●ラジオ番組「日曜娯楽版」の諷刺度●日本国憲法、施行！●〝額縁ショー〟の人気と衝撃

一九四八（昭和二三年） 美空ひばりデビュー！●福井大地震、「複合災害」の恐怖●一二人を毒殺！帝銀事件の謎●朝鮮半島〝南北分断〟の悲劇

一九四九（昭和二四年） 湯川秀樹、ノーベル賞受賞！●下山・三鷹・松川「三大事件」連続発生●〝至宝〟法隆寺金堂炎上！●中華人民共和国成立

一九五〇（昭和二五年） 朝鮮戦争勃発と日本●中尊寺・藤原氏四代のミイラに科学のメス●パチンコ大ブーム！●〝アプレゲール犯罪〟と若者

一九五〇年代

一九五一（昭和二六年） 日本、「独立」回復！●「真昼の暗黒」八海事件●初のファッションショー、モデルが誕生●「ローゼンバーグ事件」

一九五二（昭和二七年） 日航「もく星号」遭難の真相●超人気「君の名は」●手塚治虫の「鉄腕アトム」デビュー！●「風と共に去りぬ」など洋画ブーム

一九五三（昭和二八年） 〝テレビと力道山〟時代始まる！●「軍事基地・沖縄」はこうして作られた●伊東絹子、世界第三位！●エベレスト征服！

一九五四（昭和二九年） 「第五福竜丸」被曝とゴジラ誕生●「洞爺丸」転覆！●〝実質上の軍隊〟自衛隊、発足●「ローマの休日」とヘプバーン旋風！

一九五五（昭和三〇年） 家電〝三種の神器〟時代！●「国を滅ぼす」ヒロポン大流行●「春闘」が始まった●ジェームズ・ディーン、衝撃の事故死！

一九五六（昭和三一年） 「太陽の季節」芥川賞受賞！●憧れの2DK――「団地族」誕生●〝週刊誌時代〟始まる●「スターリン批判」の衝撃！

一九五七（昭和三二年） 石原裕次郎、人気爆発！●南極に日本隊！ 「昭和基地」建設●〝講師の代ゼミ〟開校●米・リトルロック高校事件

一九五八（昭和三三年） 巨人軍・長嶋茂雄デビュー！●ロカビリー旋風！●流通革命へ！ スーパー・ダイエー一号店●ド・ゴール、仏大統領に

一九五九（昭和三四年） 世紀のご成婚！●巨大「伊勢湾台風」の猛威●マイカー元年！ わが家に車がやって来た●フルシチョフ首相、歴史的訪米

一九六〇（昭和三五年） 安保闘争、運命の六月一五日●一〇年で月給二倍！ 「所得倍増論」の狙い●〝社会派推理〟松本清張ブーム●コンゴの悲劇

一九六〇年代

一九六一（昭和三六年） ガガーリン少佐、宇宙へ！●高度経済成長を支えた「金の卵」たち●アンネ発売！●韓国で朴正煕少将がクーデター！

一九六二（昭和三七年） 植木等「無責任男」ブーム●マリリン・モンロー突然死の謎！●東京の人口、一〇〇〇万人突破！●国産旅客機「YS11」

一九六三（昭和三八年） ケネディ大統領暗殺！●「水俣病とチッソ」に決定的証拠●ホンダ・スズキがオートバイ世界一！●〝昭和の巌窟王〟吉田石松

一九六四（昭和三九年） 東京オリンピック開催！●新潟地震と産業都市の〝もろさ〟●新幹線「ひかり」走る！●キング牧師にノーベル平和賞

一九六五（昭和四〇年） ベトナムに米軍直接介入！●「ジャルパック」大ヒット！●深夜番組「11PM」スタート●非常戒厳令下、日韓条約調印！

一九六六（昭和四一年） ビートルズがやって来た！●連続飛行機事故！〝魔の金曜日〟●巨大タンカー時代、「出光丸」進水●中国で文化大革命！

一九六七（昭和四二年） 公害列島ニッポン！●〝ミニの女王〟ツイッギー来日●「リカちゃん人形」誕生●南ア・バーナード博士、世界初の心臓移植

一九六八（昭和四三年） 「三億円事件」のミステリー●「日大全共闘」史上最強のバリスト●「あしたのジョー」連載開始●「プラハの春」二二九日

一九六九（昭和四四年） 人類、月面に立つ！●「寅さん」シリーズ第一作●日本、GNP世界第二位に●東大・安田講堂〝落城〟までの三五時間

一九七〇（昭和四五年） 三島由紀夫、割腹自殺！●EXPO'70で日本も大国の仲間入り●初のハイジャック！ 「よど号」●ウーマン・リブ最高潮！

一九七〇年代

一九七一（昭和四六年） マクドナルド一号店開店！●元祖ネズミ講「天下一家の会」の〝虚構〟●ドル・ショック！●林彪墜落死事件の「真相と犯人」

一九七二（昭和四七年） 連合赤軍「浅間山荘」事件●日中国交回復の〝乾杯！〟●沖縄、日本に還る●テルアビブとミュンヘン五輪「血の惨劇」

一九七三（昭和四八年） ハイセイコー〝不敗神話〟●日本列島〝トイレットペーパー狂騒曲！〟●「8時だョ！ 全員集合」超人気●金大中が消えた！

一九七四（昭和四九年） 「ベルばら」ブーム！●立花「金脈レポート」、田中内閣にトドメ●「セブン・イレブン」一号店●ニクソン大統領、辞任

一九七五（昭和五〇年） 「赤ヘル軍団」初優勝！●「紅茶きのこ」異常ブーム●始皇帝の〝地下軍団〟兵馬俑発見！●サイゴンついに陥落！

一九七六（昭和五一年） 角栄逮捕！ 政界に激震●山下家の五つ子ちゃん●サービス革命！ 宅急便「クロネコ」●周・毛死去、文革の嵐終わる

一九七七（昭和五二年） 王貞治、本塁打世界新！●「ピンク・レディー」と「キャンディーズ」●安宅マン三六〇〇人の運命●独裁者・アミンの素顔

一九七八（昭和五三年） 「カラオケ」ブーム始まる！●新実力者・鄧小平の〝外交術〟●「サラ金地獄」のカラクリ●「試験管ベビー」第一号誕生

一九七九（昭和五四年） 「インベーダー」大ブーム！●『ジャパン・アズ・ナンバーワン』の中身●「ウォークマン」開発物語●ホメイニ師、帰国！

一九八〇（昭和五五年） 山口百恵、涙の引退！●日本車、生産台数世界一に●〝金属バット殺人〟と家庭内暴力●韓国光州事件の真相

一九八〇年代

一九八一（昭和五六年） チャールズ、ダイアナ結婚！●「中国残留孤児」の祖国への旅●「窓ぎわのトットちゃん」●「フルムーンパス」大ヒット

一九八二（昭和五七年） ホテル・ニュージャパン火災！●三越「古代ペルシア秘宝展」贋作騒動●「IBM産業スパイ事件」●ブレジネフ書記長の死

一九八三（昭和五八年） 東京ディズニーランド誕生！●大韓航空機007便撃墜！●「荒れる教室」の実態●テレビドラマ「おしん」大人気！

一九八四（昭和五九年） 衝撃の「かい人21面相」！●植村直己、マッキンリー峰に散る！●宮崎駿アニメ「風の谷のナウシカ」●アフリカの飢餓！

一九八五（昭和六〇年） 日航ジャンボ〝御巣鷹の悲劇〟●エイズ日本上陸●「スーパーマリオ」大ブレイク●〝一億総グルメ〟が変えた日本人の舌

一九八六（昭和六一年） チェルノブイリ原発事故の恐怖！●三原山大噴火●鹿川裕史君を自殺に追いつめた「いじめ」●アイドル・岡田有希子の死

一九八七（昭和六二年） 金賢姫と「大韓航空機爆破」●日本、南氷洋捕鯨に幕！●マドンナ、M・ジャクソン来日●赤報隊、朝日新聞阪神支局を襲う

一九八八（昭和六三年） 日本人「李恩恵」の正体●「リクルート事件」の〝醜悪〟構造●〝じゃぱゆきさん〟の悲劇●ソ連軍、アフガニスタン撤退！

一九八九（平成元年） 昭和天皇ご大喪！●吉野ケ里遺跡発掘と邪馬台国論争●消費税三％、混乱と不安のスタート●天安門広場の惨劇

一九九〇（平成二年） 平成の「即位の礼」挙行！●日本人初！ 秋山豊寛さん宇宙へ●史上最低の出生率！ 「少子化社会」に突入●東西ドイツ統一

一九九〇年代

一九九一（平成三年） 雲仙普賢岳、恐怖の大噴火！●「湾岸戦争」勃発と日本、一三〇億㌦負担●金融犯罪続出と〝闇の紳士〟●「ソ連邦」消滅！

一九九二（平成四年） 尾崎豊、二六歳の突然死！●三内丸山遺跡発見！●除名！ 野坂参三のもうひとつの〝顔〟●ボスニア「民族浄化」の狂気

一九九三（平成五年） 皇太子・雅子さん、ご成婚！●猛毒「ダイオキシン」母乳から検出！●Jリーグ開幕●〝コカインの帝王〟エスコバル射殺

一九九四（平成六年） 向井千秋さん、宇宙へ！●河野義行氏が語る松本サリン事件と冤罪の構図●平成「米騒動」●最後のカリスマ・金日成急逝

一九九五（平成七年） 阪神・淡路大震災！●「地下鉄サリン事件」とオウム真理教の恐怖●「米兵暴行事件」と沖縄の怒り●「ウィンドウズ95」騒動

一九九六（平成八年） ペルー日本大使公邸占拠！●〝ケンカ中坊〟住管機構社長に就任●猛威！「病原性大腸菌O157」●ダイアナ妃ついに離婚

一九九七（平成九年） 「酒鬼薔薇聖斗」の心の闇●「ナホトカ号」重油流出！●「たまごっち」「プリクラ」と〝つながり願望〟●香港、返還！

一九九八（平成一〇年） 横浜ベイスターズ、日本一！●山一証券〝最後の日〟●砒素カレーなど「毒物混入」魔の連鎖！●北朝鮮「テポドン一号」発射

二〇世紀前夜

一九〇〇（明治三三年） 「パリ万博」、華やかに開幕！●「義和団事件」と日本軍の掠奪●横浜居留地「ミルラー殺人事件」●「鉄道唱歌」大ヒット！

明治という時代

一八六八〜一八九九（明治元〜三二年） 「日清戦争」開戦！●浅草に高層ビル「凌雲閣」●花・ベルツとクーデンホーフ光子●「大久保利通暗殺」とテロの系譜

わずか〇・五ミリグラムが目や肺に入っただけで、死にいたる毒ガス兵器「サリン」。平成七年三月二〇日の朝、オウム真理教によって、一袋にサリン六〇〇ミリリットルが入ったビニール袋、一一袋分が東京の地下鉄にまかれるという、およそ人間のやることとは思えない事件が起きた。あの「地下鉄サリン事件」から四年――無差別大量殺人事件の衝撃は薄れつつあるが、被害者の後遺症も、オウム真理教という集団の不気味さも、いまだに消えていない。

多くの人の人生を変えたビニール袋〝傘の一突き〟

それは、一本の電話から始まった――。

平成七年三月二〇日の午前九時頃、営団地下鉄霞ケ関駅の助役をつとめる高橋一正さん(五〇)に、妻のシズヱさん(四八)は、パート勤務先の銀行から何度も連絡を入れていた。五月に夫婦で行く予定の、北海道旅行のパンフレットを入手してもらうためだった。ところが、話し中でまったくつながらない。

「おかしいと思っていた時、臨時ニュースを見た妹から、『担架で運ばれた営団職員はお兄さんじゃないか』という電話をもらったんです」(シズヱさん)

「地下鉄サリン事件」が起きた時、霞ケ関駅の千代田線ホームにいた高橋助役は、オウム真理教の林郁夫(四八=無期懲役が確定)が午前八時頃に傘の先で穴を開けたサリン入りビニール袋を、車両から運び出した直後に倒れた。

シズヱさんは、高橋助役が運ばれた日比谷病院に到着する前から泣き出していたという。

「病院に午前一一時半頃に着いた時、夫の体は点滴の針がついたまま、すでに冷たくなっていました」(シズヱさん)

一一袋もの大量のサリンがまかれたのは、営団地下鉄の千代田線、丸ノ内線、日比谷線。いずれも八時九分から一三分に霞ケ関駅を通る電車で、出勤時間が他省庁より早い警察庁や警視庁の職員をねらった犯行なのは明らかだった。

「目が見えない」「苦しい」――ラッシュアワーの電車内で充満した刺激臭に気分を悪くした乗客は、霞ケ関、築地、八丁堀など一六の駅のホームや出口で、うめき声をあげて倒れこんだ。吐き続けるOL、手足を痙攣させ苦しむサラリーマン。救急車が病院にピストン輸送したが、最終的に一二人が死亡、五五〇〇人が重軽症を負う大惨事となったのである。

六九八人の被害者が運びこまれた聖路加国際病院で治療にあたった、中野幹三現・九段中野クリニック院長は、

「続々とかつぎこまれる患者が廊下まであふれ、まるで野戦病院のようでした」

と、振り返る。悲劇はしかし、これで終わったわけではなかった。多くの被害者に、「心的外傷後ストレス障害」という後遺症も現れたのである。

「死の恐怖にさらされた時の心の傷がもとで、突然、地下鉄での惨状をありありと思い出したり、不眠、集中力や気力の低下などの精神症状、頭痛やめまい、目の痛み、吐き気などの身体症状に悩み、今も仕事や日常生活に支障をきたしている方が多く来院されます」(中野院長)

現在、「地下鉄サリン事件被害者の会」代表世話人をつとめるシズヱさんも、こう語る。

「後遺症で会社を退職したり、症状の深刻さを家族に理解してもらえないなど、今もオウムを憎んだり、ひたすら事件を忘れたいと願っている被害者は多い。この事件は、本当に多くの人の人生を変えてしまったのです」

記事訂正とお詫び

「日録20世紀」95号(一九九五年号)掲載の特集「都心パニック『地下鉄サリン事件』!」八〜九の記述の一部、および一七の「日録」五月一四日の項に、事実の誤りがありました。正確な本文をここに添付しました。お手数ですが、切り取って該当箇所に貼付下さい。読者の皆様、また関係者各位にご迷惑をおかけしたことを、お詫びいたします。

「日録20世紀」編集部

14(日)●林郁夫容疑者の地下鉄サリン犯行供述が判明。

→ミシン目にそってお切り下さい。

→ここのミシン目から切り取って下さい。

ミニ事典
1868年〜1899年のキーワード

五榜の掲示

新政府が明治元年三月一六日、旧幕府の高札を撤去、新たに五榜の掲示として全国に立てた制札。徒党・強訴・逃散、キリスト教、外国人への危害、本国脱走など五項目を禁じた。民衆政策の基本だったが、いずれも旧幕府の政策追認で、新時代到来を宣言し、その理念をうたう「五箇条の誓文」との落差は大きかった。

▲切支丹禁止の高札。新政府は、神道の障害になるとキリスト教禁止を五榜のひとつに組み入れ、各県で高札を立てた。

排仏毀釈

明治元年の神仏分離令・神道国教化政策を機に、全国で起きた仏教の抑圧・排斥・破壊運動。寺院・僧侶に収奪されてきた民衆も加わり、明治九年頃まで、寺院の破壊、焼き打ちが続いた。鹿児島藩では明治二年末までに、寺院一〇六六が廃され僧侶二九六四人が還俗している。また、宝物など文化財の散逸、海外流出も目立った。こうした極端な弾圧に対し、明治六年の三河護法一揆のように、排仏反対運動も高まった。

「マリア・ルース号」事件

ペルー船の中国人労働者の解放をめぐって起きた事件。明治五年七月九日、横浜に寄港の同船から中国人が脱走、船内での虐待を訴えた。英・米は日本政府に糾明を要求。神奈川県は臨時法廷で、引き渡しを求める船長に契約の無効を宣告したが、ペルー側が娼妓の年季奉公の証文を示し、日本の娼妓も同じと反論した。苦境に立った日本は一〇月、娼妓解放令を発令。廃娼運動の契機を作った。

琉球処分

▲「琉球処分」を否認、清国に出国したが日清戦争で王国再興の夢破れて帰国した人々。

明治政府が琉球王国を日本に組みこんでいった一連の処置。明治五年一〇月一六日、日本は琉球に、維新慶賀使節の派遣を要求、国王・尚泰を琉球藩王・華族に列した。翌年、台湾に出兵して、清国に琉球の宗主権放棄を要求、琉球の日本帰属化をはかった。しかし、琉球藩は清国への朝貢を続けて抵抗したため、明治一二年、ついに九州派遣の軍警五百余人の武力で、沖縄県とした。

日朝修好条規

日本と朝鮮で結ばれた近代最初の条約。明治九年二月二六日、朝鮮の江華府で日本側(黒田清隆・井上馨)と、朝鮮側代表が会談。前年、開国を拒む朝鮮を挑発して江華島事件を起こした日本は、軍事力を背景に強引に調印にこぎつけた。条規は朝鮮から清国勢力を排除、釜山などの開港、日本の領事裁判権、無関税特権などを規定する、不平等条約だった。

コレラ一揆

コレラ流行にともない全国各地で起きた農民騒擾・暴動。明治一二年、コレラは全国で患者約一六万人、死者一〇万五七八六人に達し、最盛期の八月頃に一揆が頻発した。警察は患者が出ると日中は黄旗を立て、夜間はコレラの標章をつけた提灯を掲げて避病院に隔離、患者宅に石炭酸をばらまいた。民衆は、当局のこうした非人間的対応に、「米価騰貴反対」をからめ、「ノー」を唱えた。

官業払い下げ

産業育成と累積赤字解消のため、政府が行った直営企業の民営化。明治一三年一一月五日の工場払下概則が端緒で、一七〜一九年に集中した。価格は低廉で、一七年九月に五五万円を投じた小坂鉱山が、二七万円の長期年賦で藤田組に払い下げられたが、同鉱山は後に財閥になる藤田組の中核になった。三池炭鉱の三井、長崎造船局の三菱、兵庫造船所の川崎、深川セメントの浅野など、財閥形成の重要な契機となった。

松方デフレ政策

「明治一四年の政変」で、大蔵卿に就任した松方正義の財政金融政策。西南戦争期に昂進したインフレを一転、デフレに転換、一八年に最高潮に達した。乱発した紙幣の整理、日本銀行の設立と貨幣・信用制度の整備、軍備拡張のための緊縮・増税政策などのため、いっきょに不況になった。農民で土地を失い、困窮するものや小企業の破産が続出したが、一方では大企業の勃興をうながした。

婦人束髪会

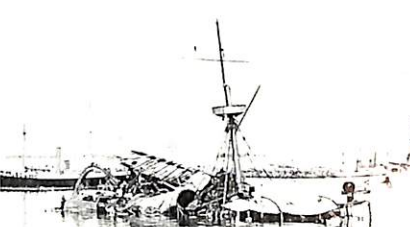
生活の欧風化・合理化のため、婦人の束髪を勧める会。明治一八年七月、東京で医師の渡辺鼎、雑誌記者の石川暎作らが設立。従来の日本髪は不便で窮屈、不潔になりやすい、不経済だと主張して賛同を得、欧化主義の時流と簡便さで、たちまち流行した。九月の日本橋での調査では、その二割がすでに束髪だったという。上げ髪、下げ髪、英吉利結び、マガレイト結びの四種が人気だった。

三国干渉

日清戦争後の講和条約に対する露・独・仏三国の干渉。満州(中国東北部)に関心を持つロシアを中心に、明治二八年四月二三日勧告。日本の遼東半島領有は清国の首都・北京に対する脅威となり、朝鮮の独立を有名無実化すると主張、艦隊を集結して威嚇した。外相・陸奥宗光は英・米・伊に援助を求めたが失敗、世論の不満をロシアへの敵対心に振り向けつつ、三国の主張を呑んだ。

米西戦争

アメリカとスペインが、キューバとフィリピンを舞台に戦った戦争。一八九八年四月二五日開始、一二月一〇日、パリで講和条約が調印され、米国の海外進出が現実化した。キューバとフィリピンは長年、宗主国・スペインの圧制に苦しみ、民族主義者による独立への長い叛乱が始まっていた。米国はこの混乱に便乗、極東への通商拡大の拠点と、カリブ海制覇のための根拠地を獲得した。

ARCHIVE PHOTOS

▲1898年2月、米戦艦「メイン号」がハバナ沖で謎の爆沈、252人が死亡した。これをきっかけに、米西戦争が始まった。

週刊YEAR BOOK/日録20世紀 1868~1899

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室(茂村巨利)+渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展
藤森雅弘 森邦久 結城順一 吉田忠正

●写真協力
石黒敬章 乙咩雅一 河音能平 楠田守 眞寿美・シュミット=村木 田代真 南川三治郎 前川久太郎 渡辺光
ARCHIVE PHOTOS オリオン・プレス デジタルハウス HULTON GETTY 平凡社 毎日新聞社 ユニフォト・プレス
旭光学工業 川崎重工業 松竹
がす資料館 紙の博物館 京都府立総合資料館 呉市企画部海事博物館推進室 慶応義塾図書館 慶応義塾福澤研究センター 神戸市水道局 神戸市文書館 西郷南洲顕彰会 三康図書館 市立函館博物館五稜郭分館 台東区立下町風俗資料館 津田塾大学 東芝科学館 日本近代文学館 日本漫画資料館 日本郵船歴史資料館 bpk 福井市立郷土歴史博物館 ペンタックス・カメラ博物館 北海道大学附属図書館 早稲田大学

宝物など文化財の散逸、海外流出も目立った。こうした極端な弾圧に対し、明治六年の三河護法一揆のよう

を拒む朝鮮を挑発して江華島事件を起こした日本は、軍事力を背景に強引に調印にこぎつけた。条規は朝鮮

束髪を勧める会。明治一八年七月、東京で医師の渡辺鼎、雑誌記者の石川暎作らが設立。従来の日本髪は不　　、不潔になりやすい、不経　　　主義

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1868～1899

CONTENTS

●特集

週刊YEARBOOK 日録20世紀 1868~99

●明治という時代

3月2日号

第3巻第8号 通巻100号
平成11年3月2日発行(毎週火曜日発行)
平成10年8月21日第三種郵便物認可

編集人 近藤達士
発行人 丸本進一
発行所 発売所 株式会社 講談社
郵便番号112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
(編集)03-3944-1295 (販売)03-5395-3604

定価560円 本体533円

雑誌 23721 3/2
Ⓛ-2001/1/1

T1123721030565

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社